

CONTENTS

- 第22章 追憶Ⅰ 001
- 第23章 追憶Ⅱ 025
- 第24章 追憶Ⅲ 049
- 第25章 追憶Ⅳ 071
- 第26章 追憶Ⅴ 095
- 第27章 追憶Ⅵ 117
- 第28章 追憶Ⅶ 139



作画: 肋兵器

ABARAHIEKI

原作: 入江君人

KIMIHITO IRIE

キャラクター原案: 茨乃

SHINO

の神さまのいない日曜日 IV
KAMISAMANO INAI NICHINYŌ IV



作画: 肋兵器

原作: 入江君人
キャラクター原案: 茨乃
富士見書房

あ-6
1-4



9784047128880

ISBN978-4-04-712888-0

C0979 ¥580E

定価: 本体580円(税別)

発行: 富士見書房



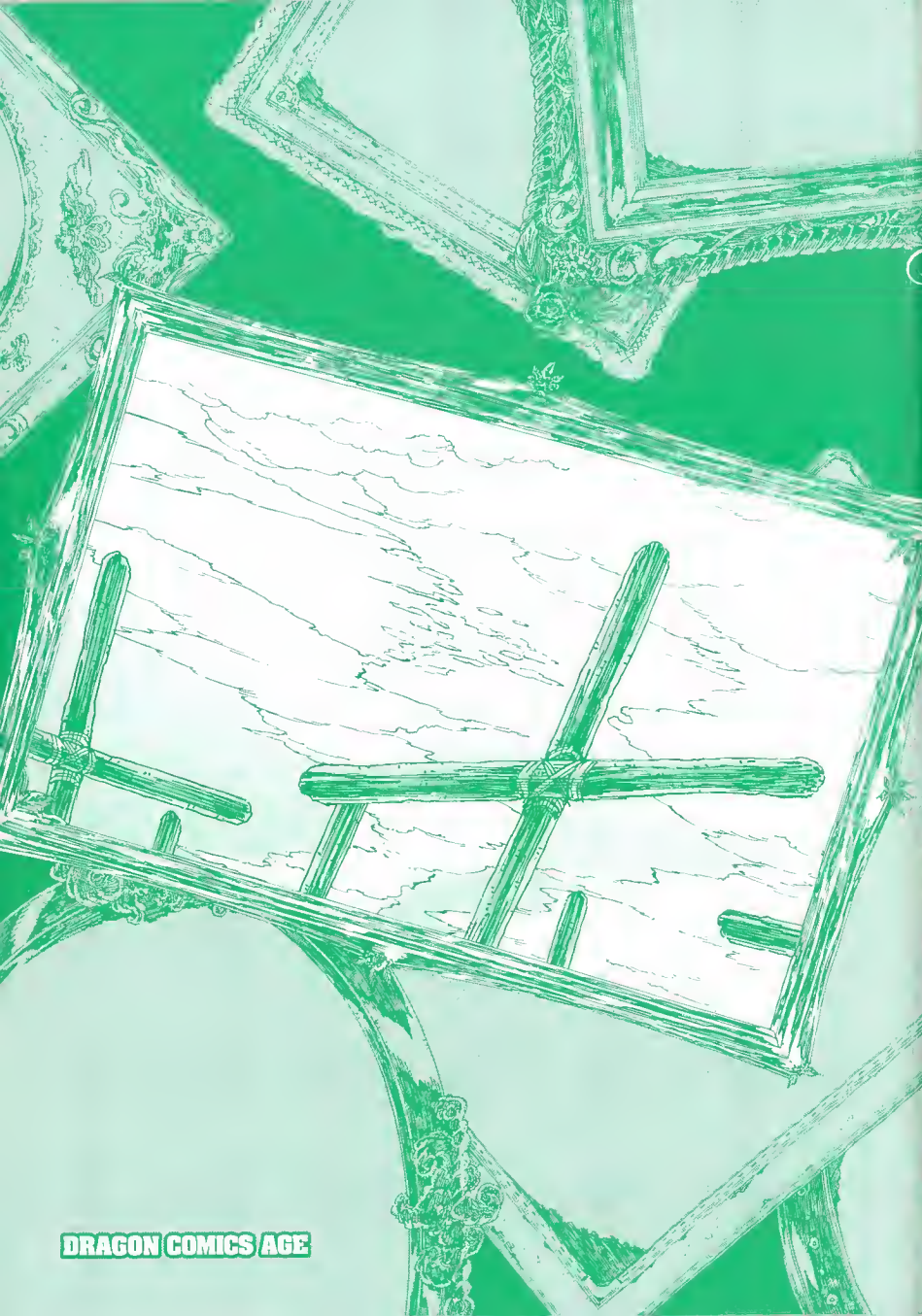
1920979005808



人が生まれず死ぬこともなくなった。
神様に見捨てられた世界で、
12歳にして「墓守」をつとめるアイと、
彼女を取り巻く人々との邂逅… ついに完結!



KAMISAMANO
INAI
NICHINYŌ



DRAGON COMICS AGE

あ-6

1-4



DRAGON
COMICS
AGE

神さまのいない日曜日 IV



作画

肋兵器

原作

入江君人

富士見
書房

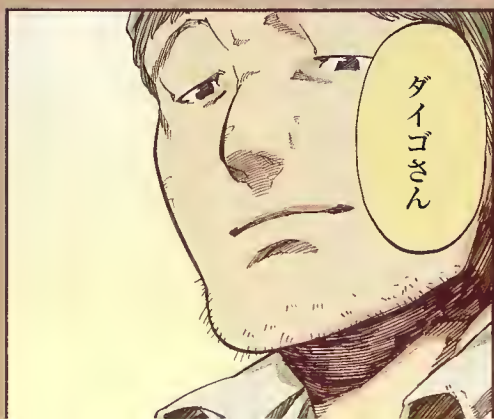
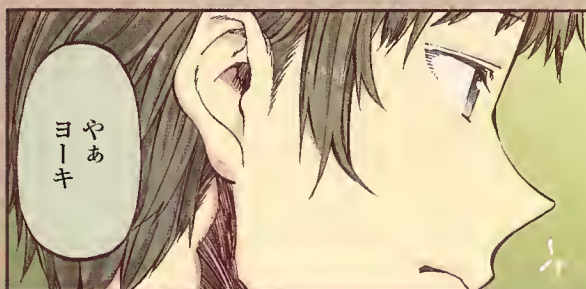
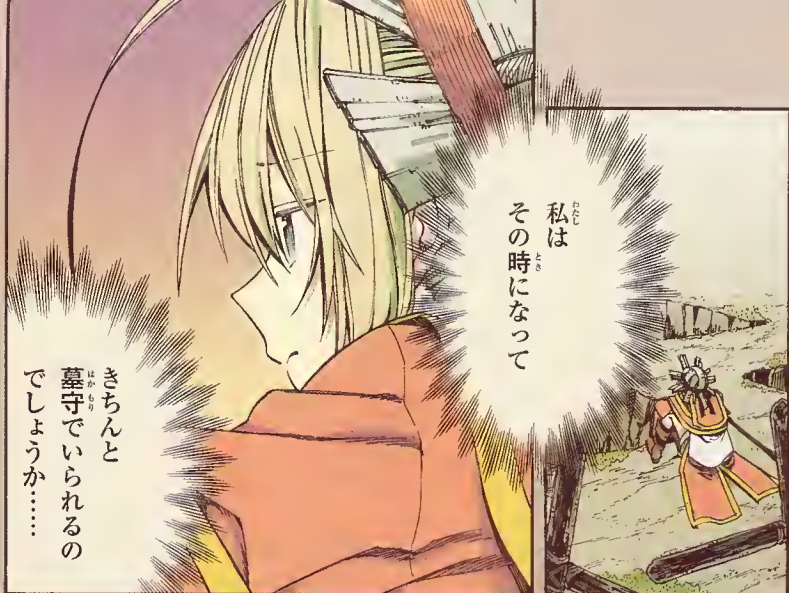
神さまのいない日曜日 IV
KAMISAMANO INAI NICHIYOUSHI



の神

さまの
KAMISAMANO
INAI
NICHICOURI
いない
日曜日





部外者……
ですか

ああ
なんか俺らに
聞きたい事が
あるみたいでな

家の中で聞くよ
ってところまでは
話を進めて
おいたからさ

あとは頼むよ

わかりました
皆には近づかない
ように伝えて
おいてください

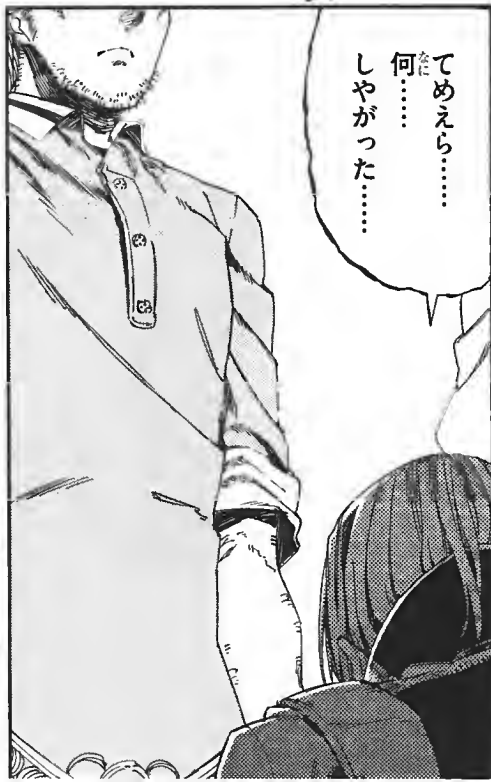
はいよ

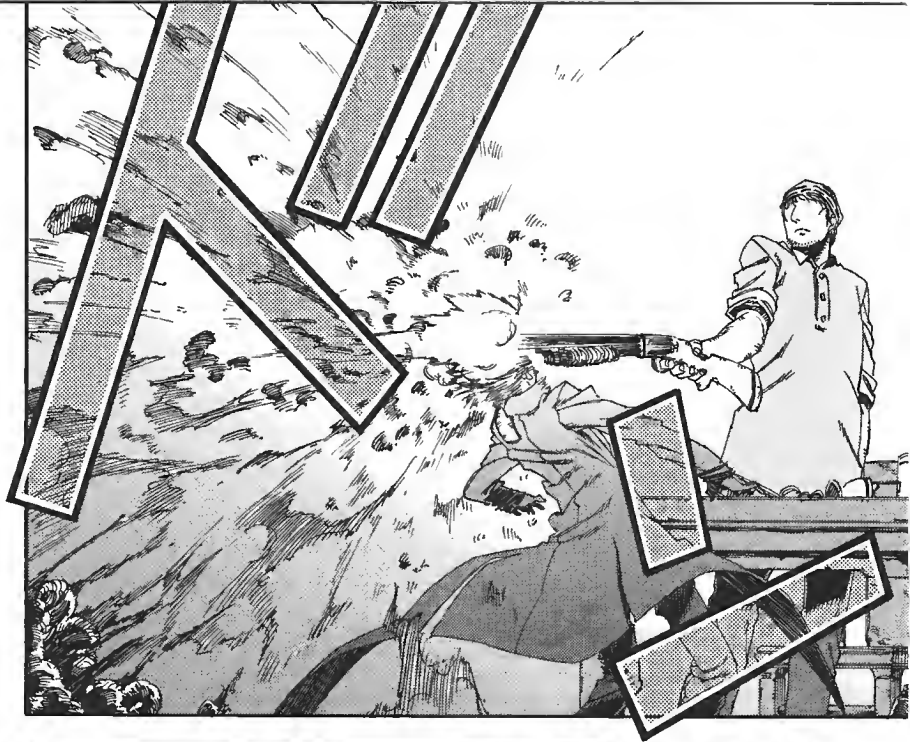
ヨーキ……

大丈夫だよ
アンナ











村に入^{はい}った者^{もの}は
すべ^{すべ}てこ^ころ
全^{ぜん}て殺^{ころ}す……

本^{ほん}当^{とう}にこ^こんな事^{こと}
続^つけてい^いて
いいん^んでし^しようか



万^{まん}が一^{いち}に^にても
村^{むら}の事^{こと}が外^{そと}に
漏^もれな^ないとも
限^{かぎ}ら^らない

仕^{しか}方^た
ないん^んだ



でも……

殺^{ころ}さずとも
こ^ここに留^{とど}める
事^{こと}だ^だつて……

ヨーキ



生^いきてい^いる
人^{にん}間^{げん}は

お前^{まえ}一^{ひと}人^りでい^い

さてと

早いとこコイツを
遠くの森にでも
置いてきて

巡回中の墓守に
処理して
もらわんとな

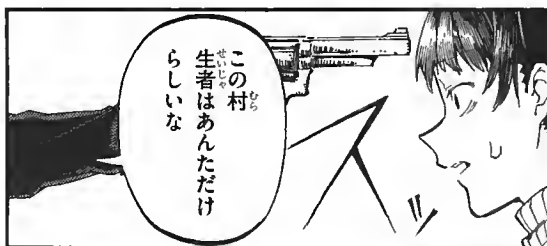
ダイゴ……さん

ん？
どうした
ヨーキ











生者である
あんたが何故
こんな村に？



……
……ああ



なるほどな

さしずめ
ここは……



……僕は
死体調整師だ

彼らの
治療を
引き受けていた





生きてる奴の
犠牲の上に成り立つ
天国なんざ

俺が
ぶっ壊してやる

な……っ

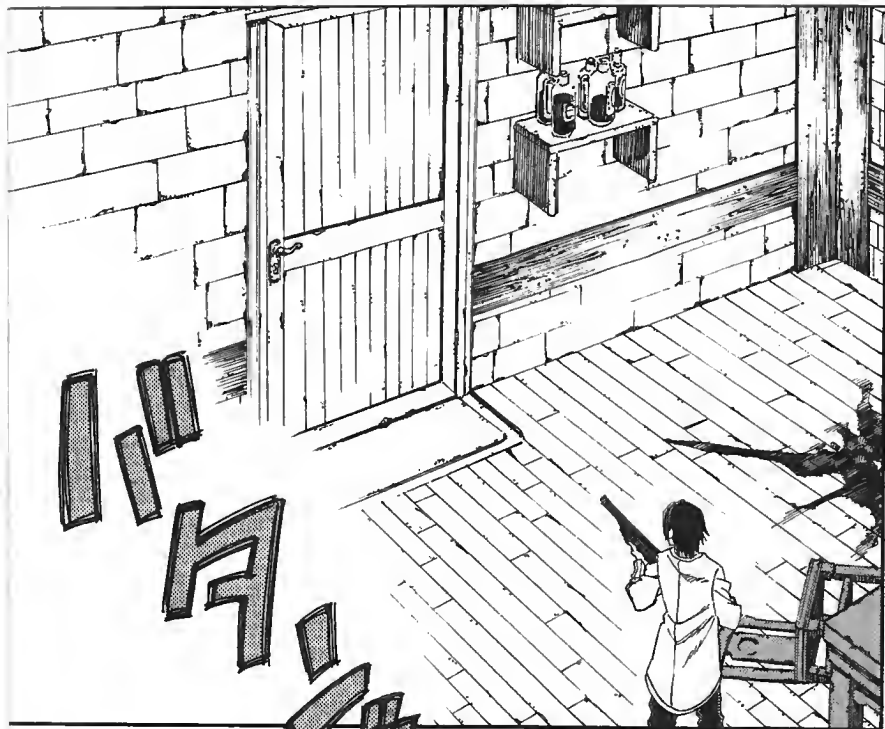
壊す……
この村を……!?

皆を……

アンナを……

ま……
待て!!









ヨーキ！
アイツはどこに……

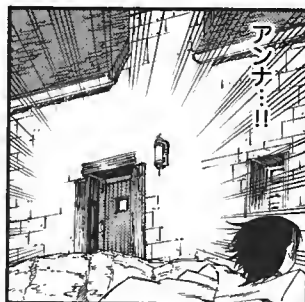
アンナ……



アンナ……

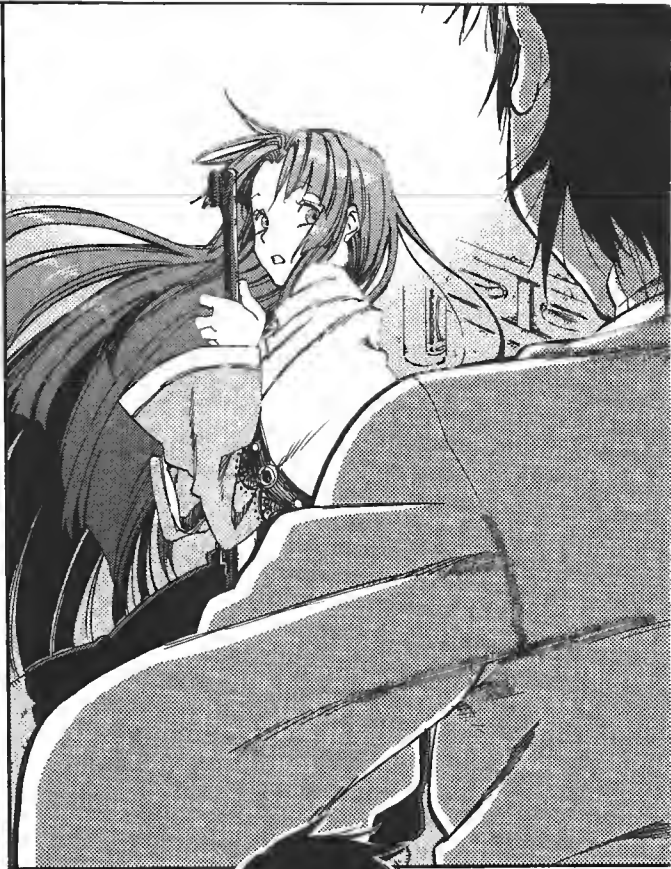
アンナ……

おい!!
ヨーキ!!



アンナ!!!







よかった……
無事で

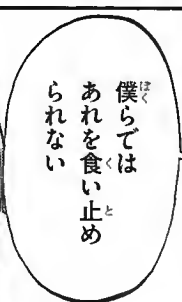


今……村に
起っている事は
分かるかい？

ええ
大体の事は……
あの人が皆を
手にかけてたって……



あれは
化物だ……



僕らでは
あれを食い止め
られない




この村は
じきに
壊される……




……そう



だからアンナ
今すぐここを
出よう




今ならまだ
騒ぎに乗じて安全に
出られるかもしれない



僕は君さえ
居てくれれば……

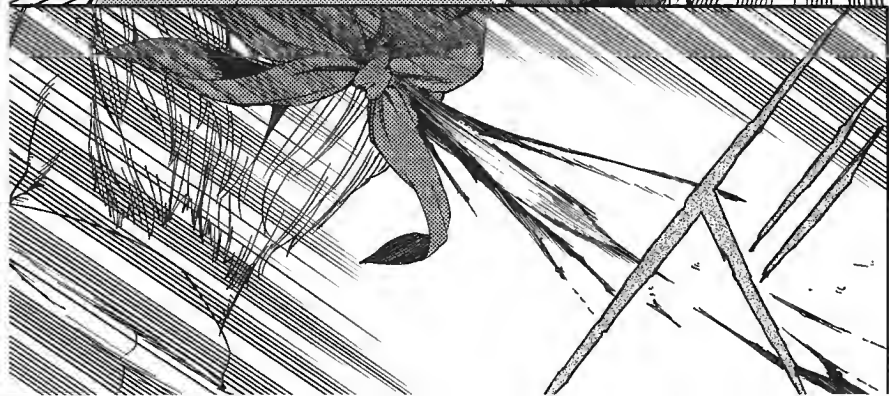
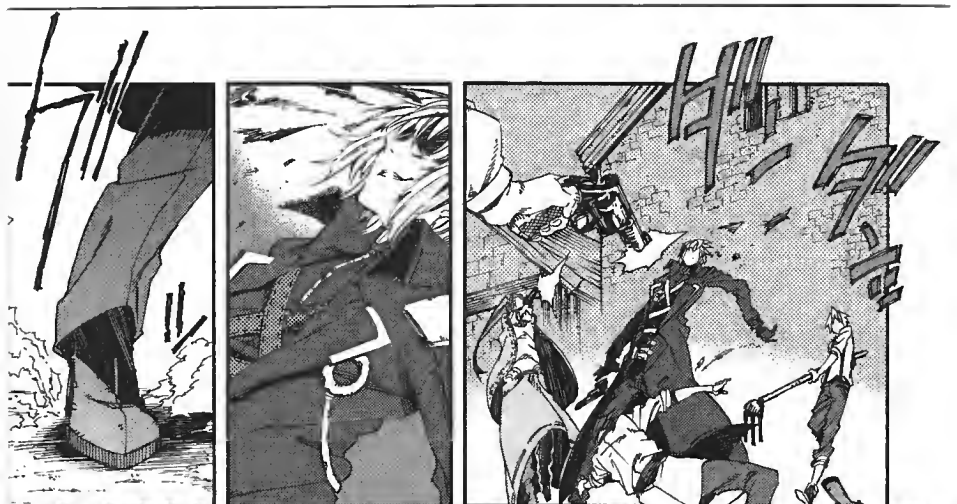
ヨーキ



私は
行けないわ

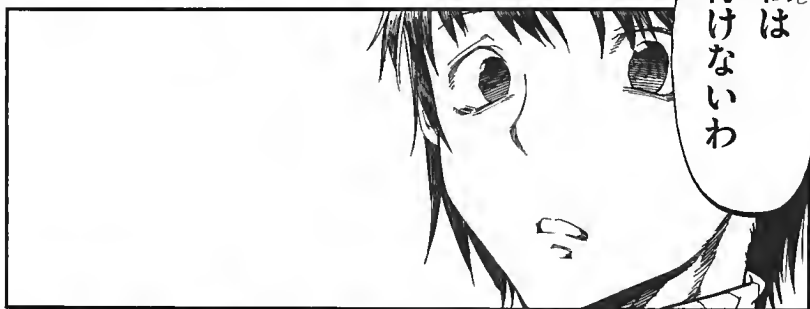








わたし
私は
行けないわ



え……？

ど
どうして……っ

ここがなくなっ
てしまっ
たら

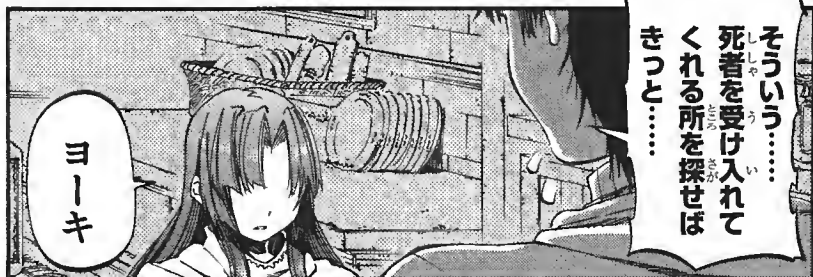
さん
にん
三人で居
られる
場所
は無い
から

居場所
が無い
から……

居場所なんて……
きつとどこかに
あるさ！

死者のための
都市があるなんて
話も聞いた事
がある……

そんな
事……



そういう……
死者^{ししゃ}を受け入れて
くれる所^{ところ}を探せば
きつと……

ヨーキ



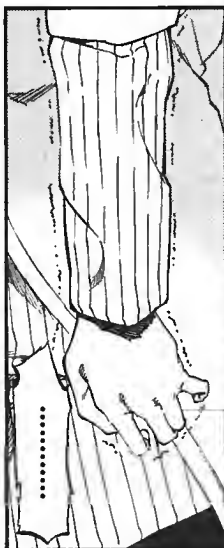
生者^{せいじゃ}は死者^{ししゃ}を
疎^{うと}み

死者^{ししゃ}は墓守^{はかもり}を
疎^{うと}むわ



死者^{わたし}を受け入れて
くれる所^{ところ}は

墓守^{アイ}を受け入れて
くれない……



私^{わたし}が

いなくなれば

アイとヨーキなら
どこにだって
行けるの

本当ならもう
とっくに終わっている
命^{いのち}だもの……

それに

死^しんでしまっただけから
アナタが居て
アイの母^{はは}親^{おや}にも
なれて

幸せ^{しあわせ}だったわ

あとは
二人^{ふたり}が幸^{しあ}せに
なってくれば
それでいいの……

駄目だ
……そんなの

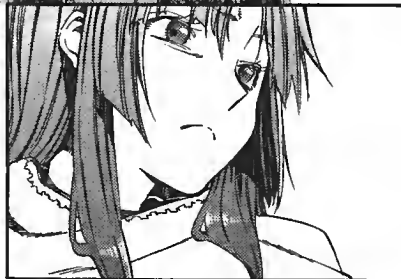
だからお願い
……
アイを連れて
行って……

僕は……



僕は君と一緒に
居たいんだ

ヨーキ



どうしてこんなにも
違うんだろう

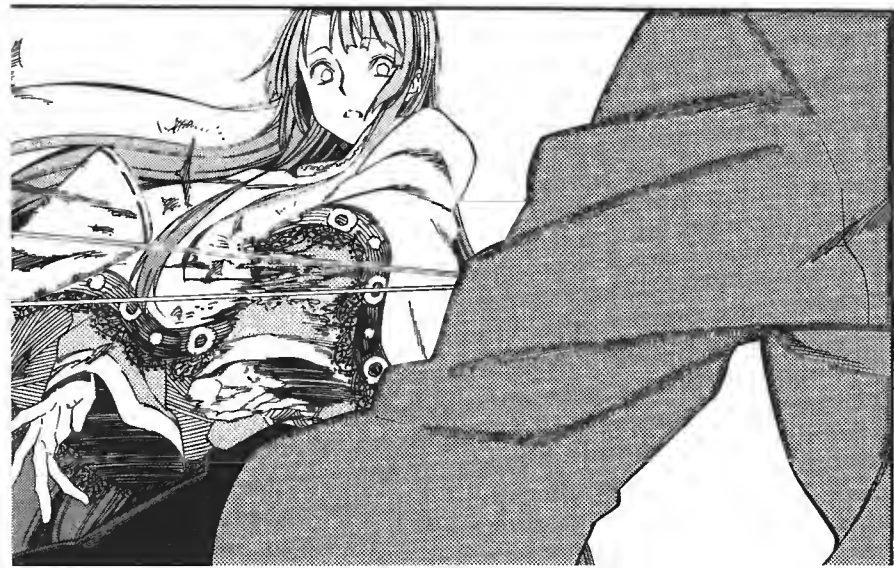
君と僕は……

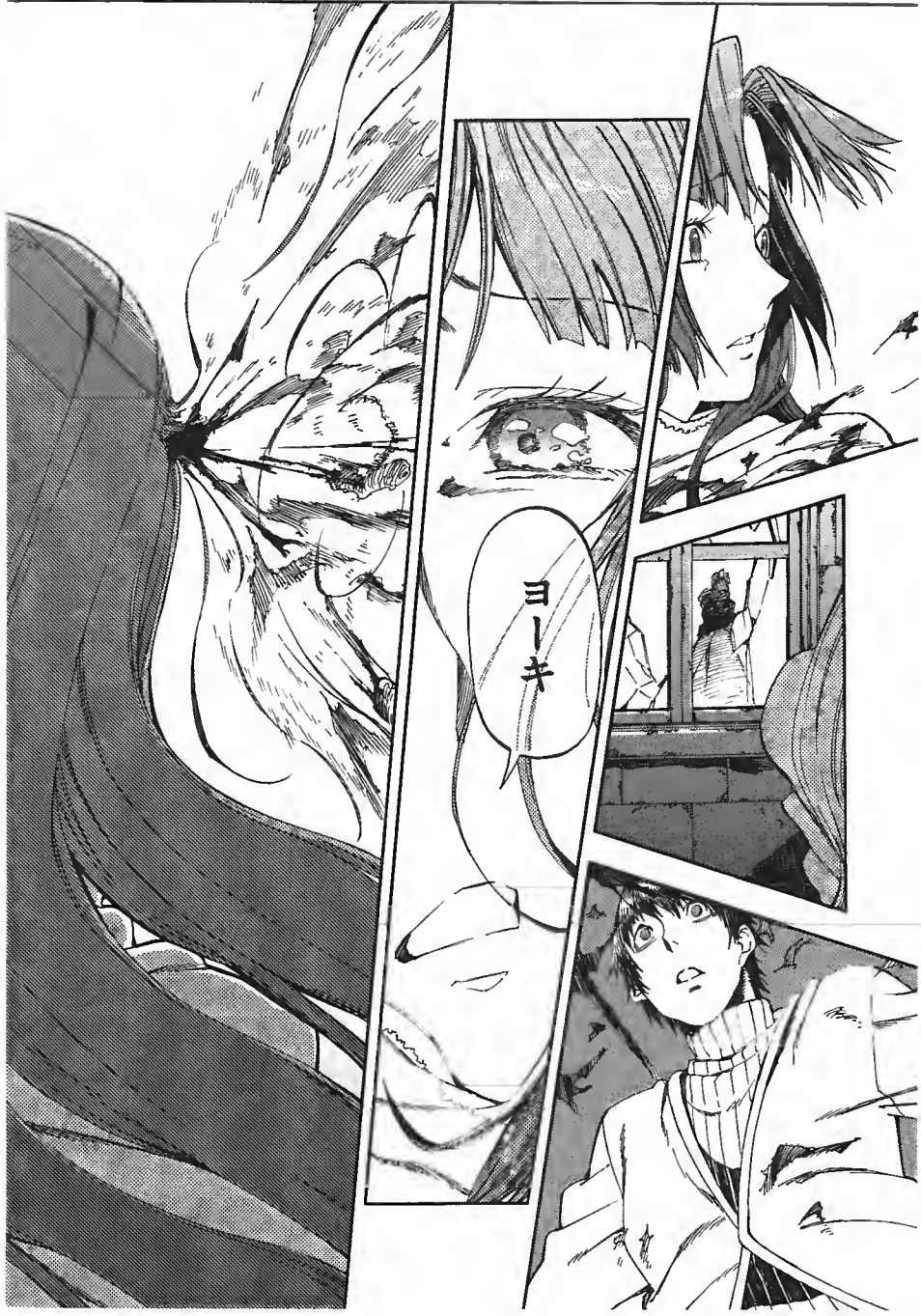
僕は……

そうじゃないんだ……

違うんだよ

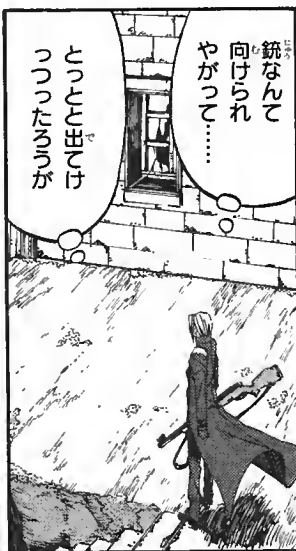
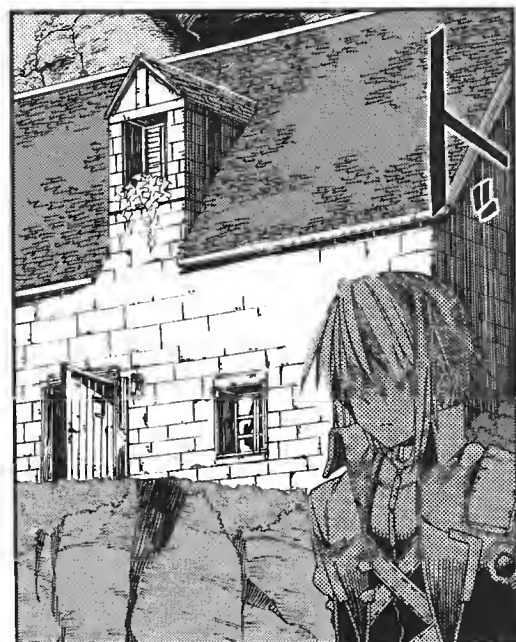
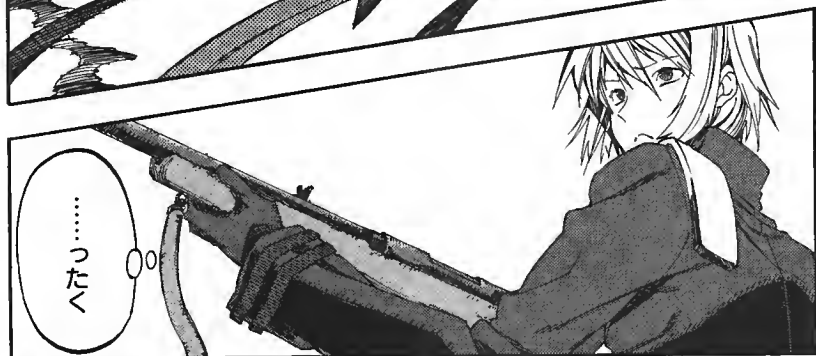
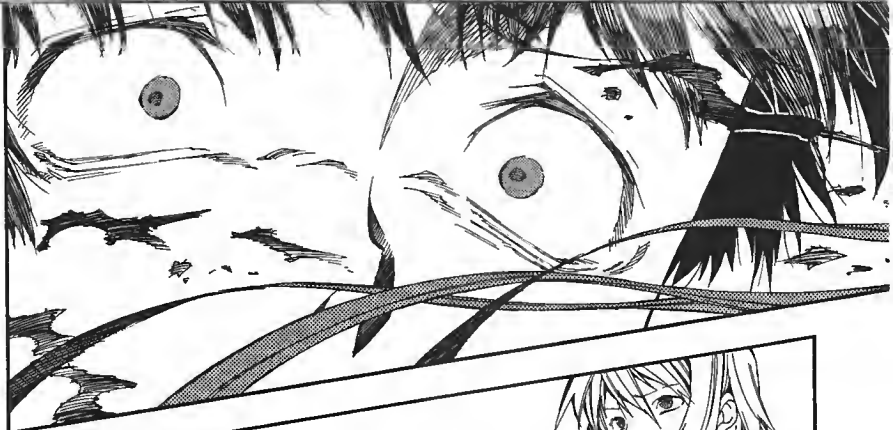
アンナ……ッ

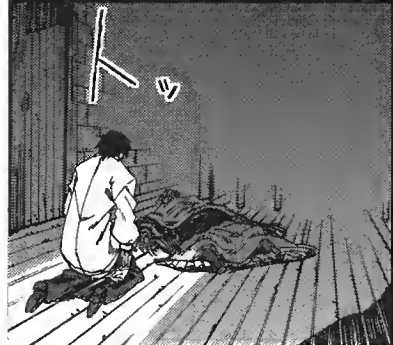




ヨーキ





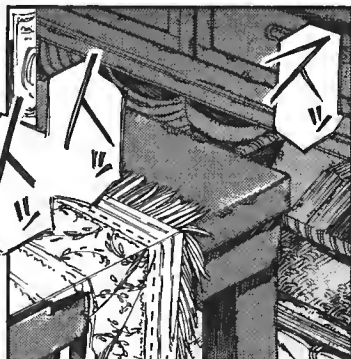








ヨーキ……



コトッ
カチャカチャ

カチッ



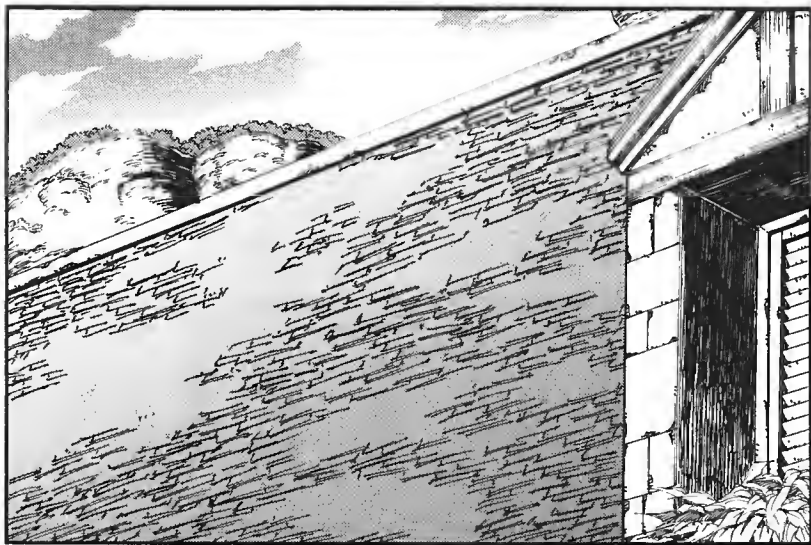
アイをお願い
ねが

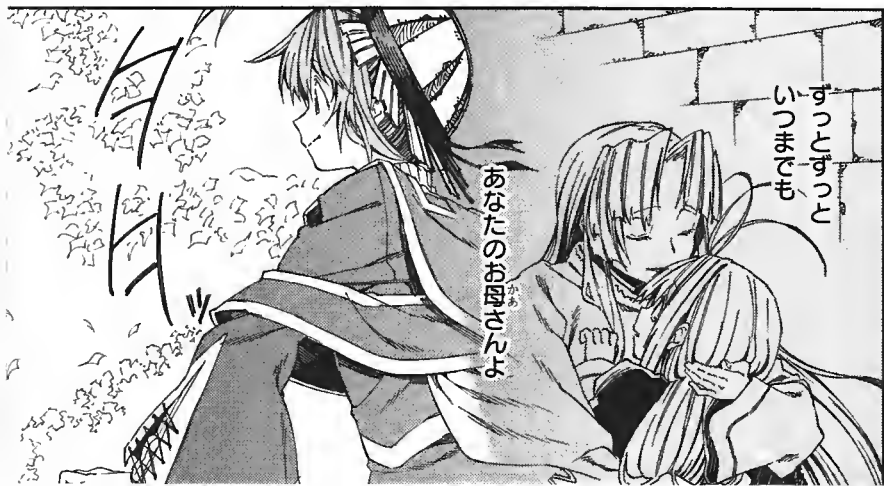
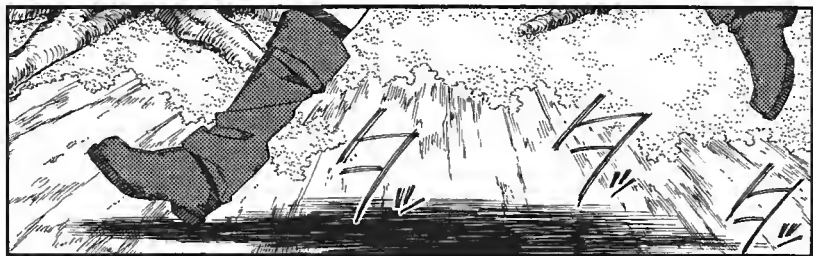
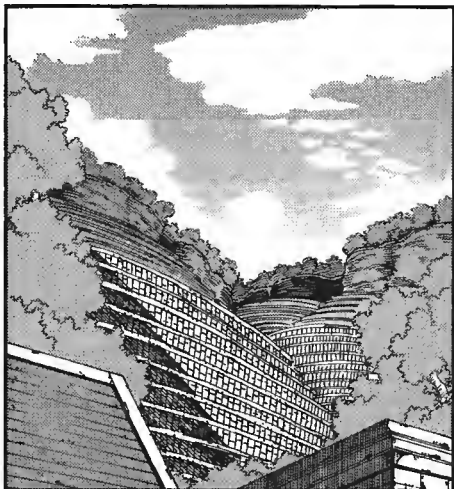
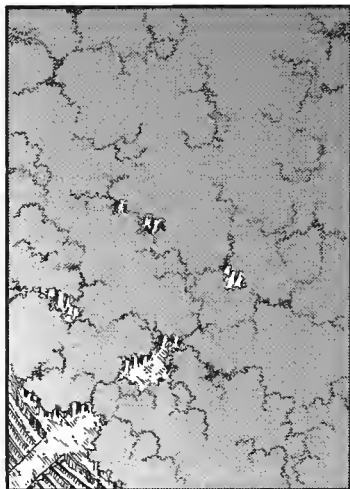
アンナ

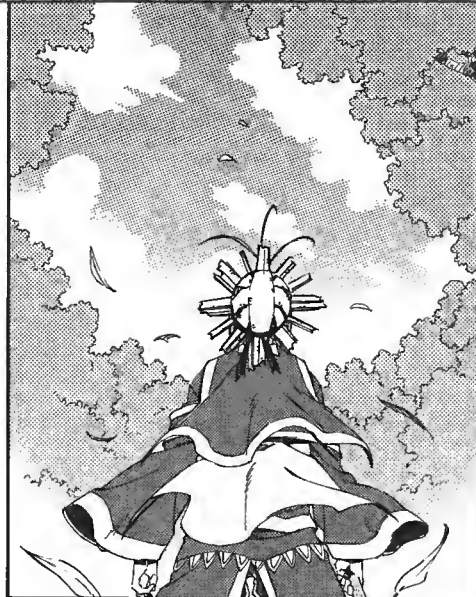
……
アイ

ごめんね……

ねえアンナ







ヨーキがお父様

アシナがお母様で



家族！



えへへ





六年
前

ここか……

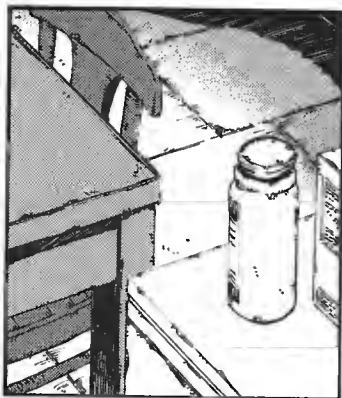
第24章 追憶Ⅲ

ユリーの家は

あ

来てくれたのね
キツナ

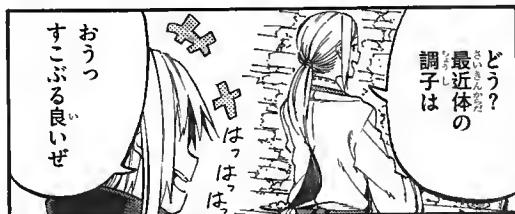






お前達^{まえたち}が俺^{おれ}の
前^{まえ}から姿^{すがた}を
消^けして

もう一年^{いちねん}は
経^たったよ



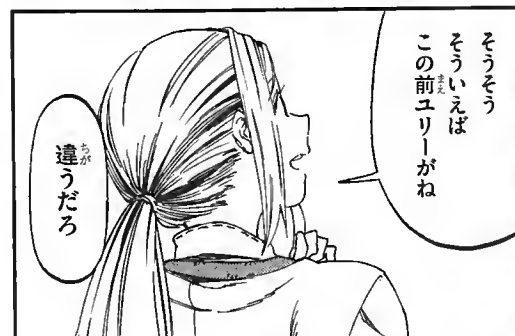
どう?
最近^{さいきん}体の
調子^{てうし}は

おうっ
すこぶる良^いいぜ



まあなんたつて
不死^{ふじ}身^み
だからな

まだそんな事^{こと}
言^いってるの?



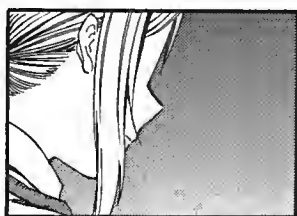
そうそう
そういえば
この前^{まえ}ユリーがね

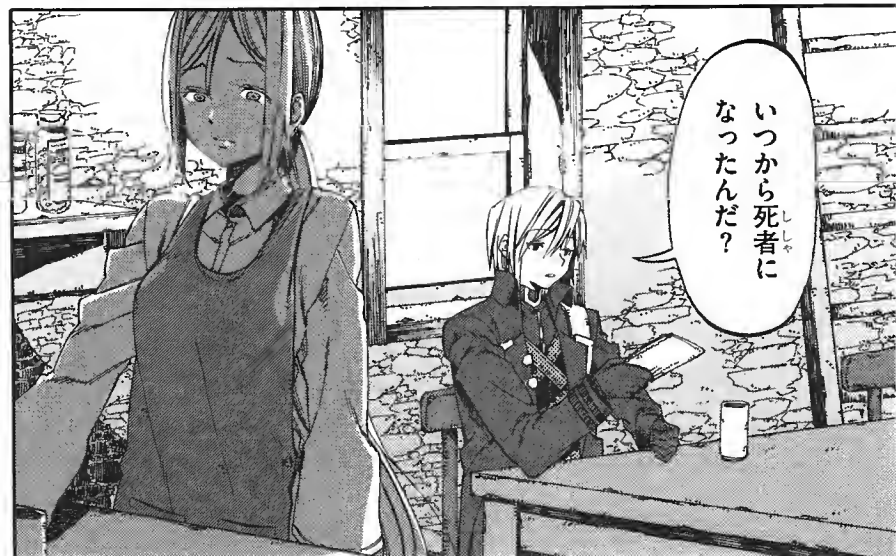
違^{ちが}うだろ



そう……

そんなに
経^たってたのね







あなたの前から
居なくなつた時……

いちねんまえ
一年前よ

ちよつとした
事故でね……

目が覚めた時には
死者になつた

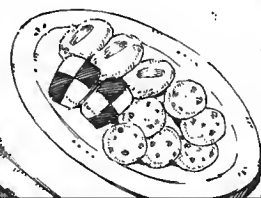
その後ユリーが
言つてくれたの

人里を離れよう
って
それで……



俺を呼んだ理由は？

私を
死なせて
ほしかった……



自分で墓守の
所には何度か
行こうとしたけど
行けなかった

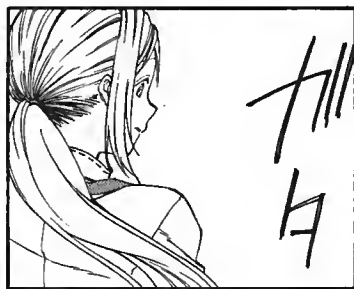
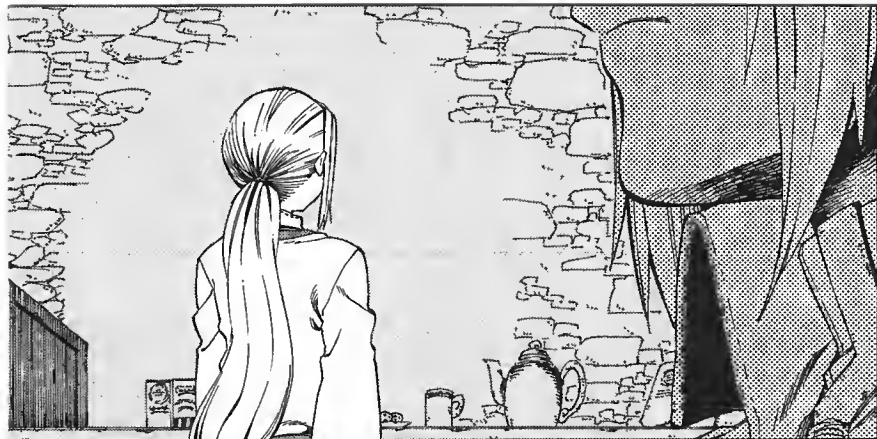
キツナなら
無理矢理にでも
連れていってくれる
と思ったの

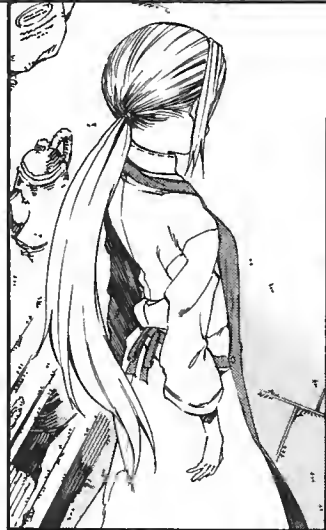
近頃……
自分でも驚くくらい
自分本位になってる

このままじゃ……

いずれユリー達を
壊しかねない
……か

……………うん





なに
か
何か書くものは……

いや
嫌よ……

えーと……

やっぱり嫌いや

死ぬのは嫌いや

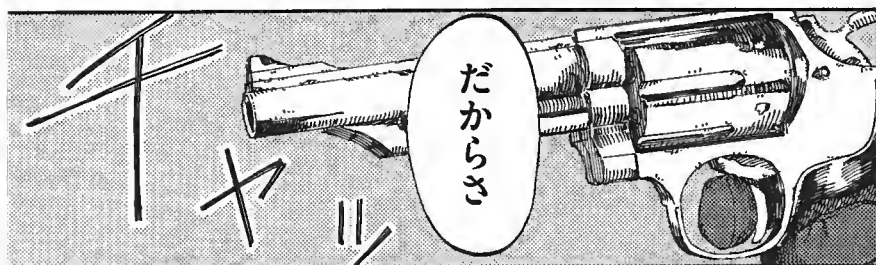
だって……
やりたい事がまだ
沢山あるのよ？

動く事だって
話す事だって
出来るのよ？

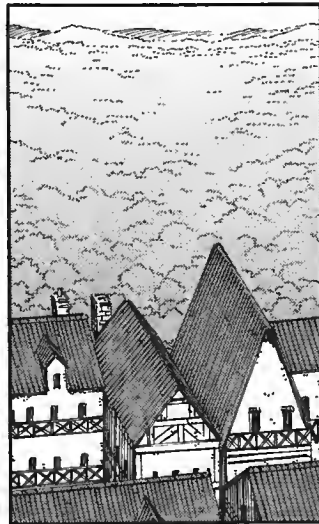
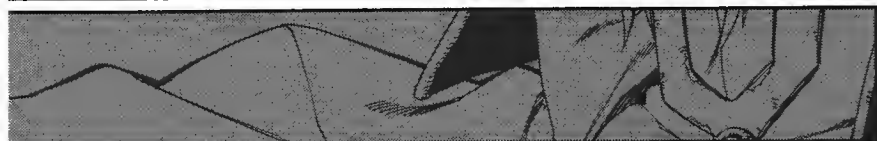
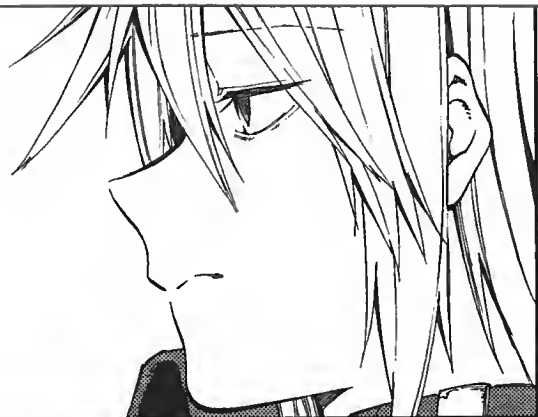
あの子の成長も
見守りたいし
ユリーともずっと
一緒に居たい……

今とても楽しいの
穏やかで
嫌な事を考える事も
無くて……





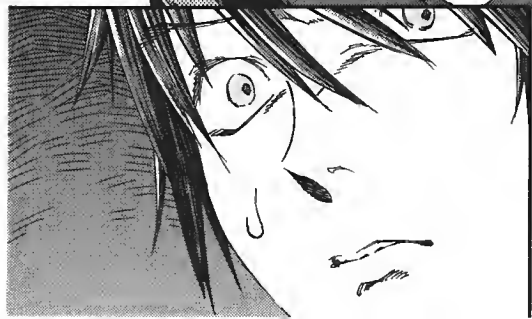


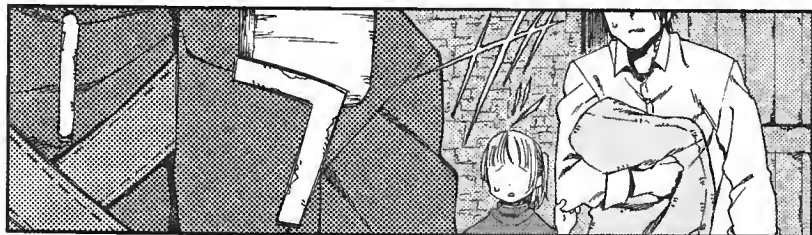


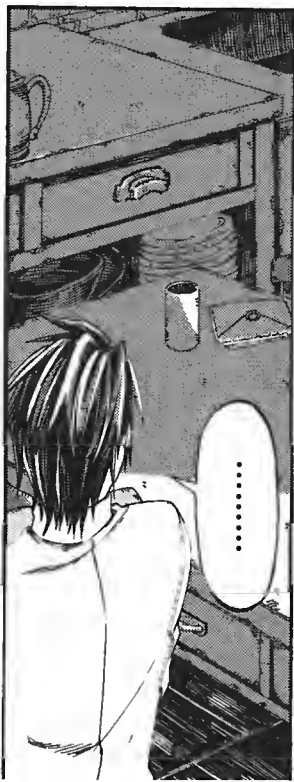
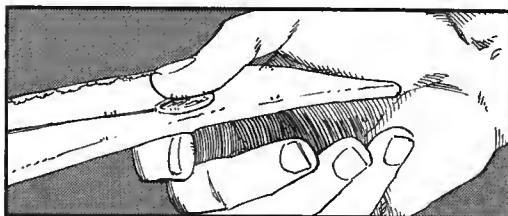
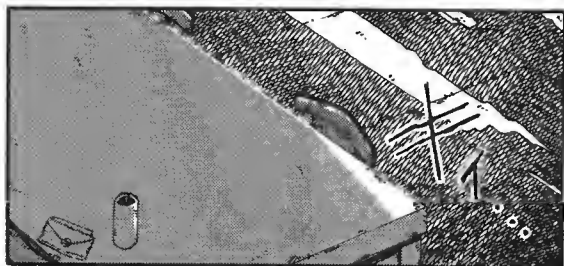
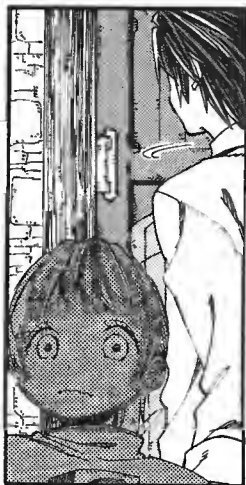
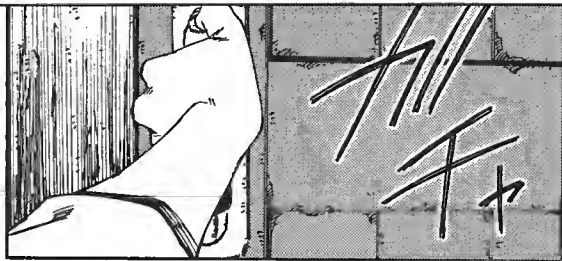


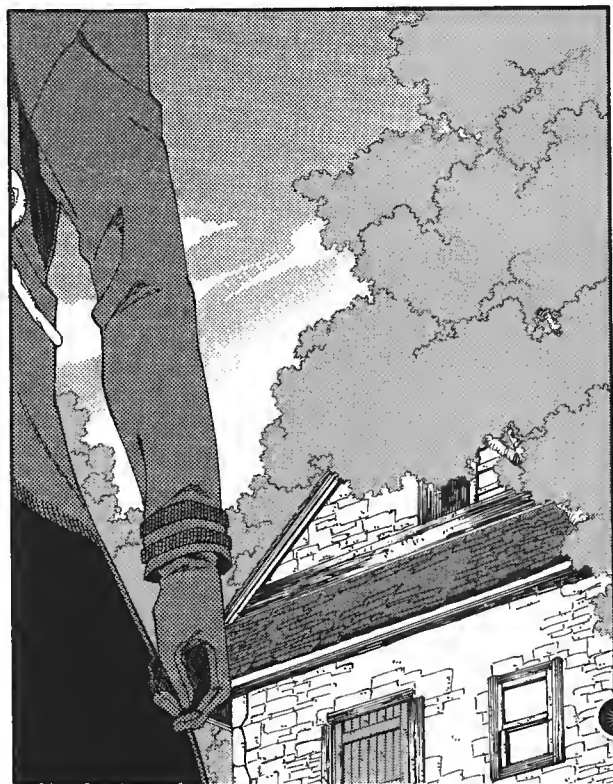
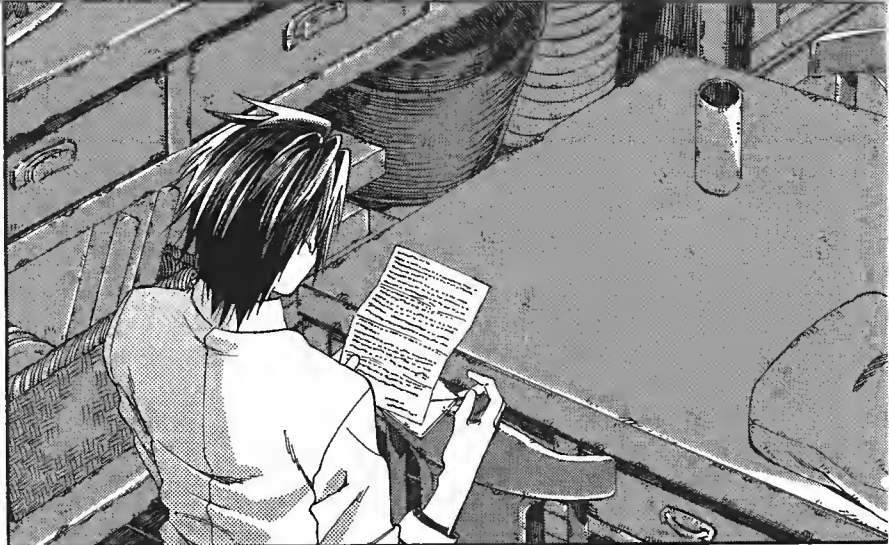


ちよつと
裏にある
借りたぞ













さまの
KAMIGAMI
FROM
NICHIFUSE

いない
目曜!

ちよつと村の外へ
資材集めに……

村を出ること
十数分……

軽く物集めたら
すぐに帰るつもり
だったんだけど

……

まさかこんな所に
人が倒れて
いるとは……

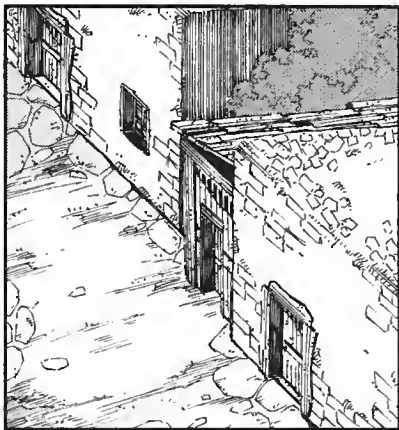
生きてる……よな



とりあえず



うちに
運んでおくか……





おめ
目え覚めましたか

……ここは

み
見つけた時は
なにを
何事かと
おも
思ったよ

ぶ
無事そうで
なによりだ

あなたが……
私を？

くるっ

そうだよ

たい
それは大変
めいわく
ご迷惑を……

あー
それはいいんだけど
それよりさ

なんであんな所で
倒れてんだ？



この辺りから
死者の気配を
感じとり向かって
いたのですが

隣の村で死者と
戦闘を行った際

思っていた以上に
体力を消耗
していたらしく

ここに辿り着く
前に倒れて
しまったようです

自分の認識の
甘さを痛感しますね

そっか

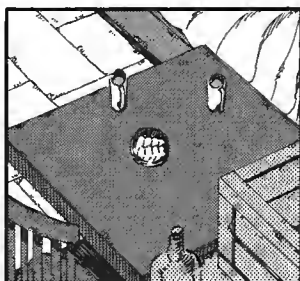




そうだ……
なまえ
名前











あの崖^{がけ}のところにさ

幾つ^{いくつ}も家^{いえ}があるだろ

死んだ奴^{やつ}らは
皆^{みな}あの辺^へりに
居^いる



なるほど
あそこですか

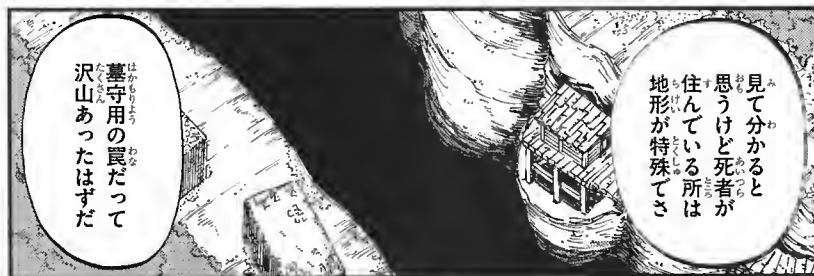
わかりました
ありがとうございます
ございます

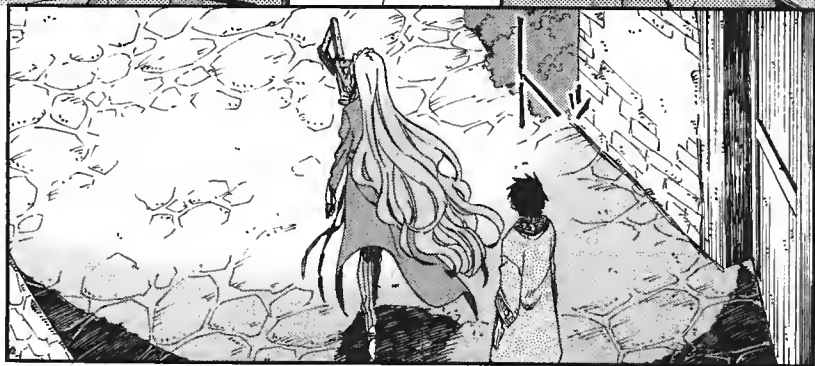


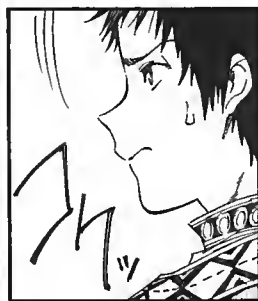
それでは
私はこれで……



たぶん^{たぶん}にじゅうにん
多分^{たぶん}二十人……
さんじゅうにん
三十人は居^いない
はず^{はず}だけど











母^{かあ}さんと
姉^{ねえ}ちゃんが

向^むこう側^{がわ}に
居^いるんだ……



だから……



二人^{ふたり}には
人^{ひと}を手に
か^{こと}ける事^{こと}無^なく


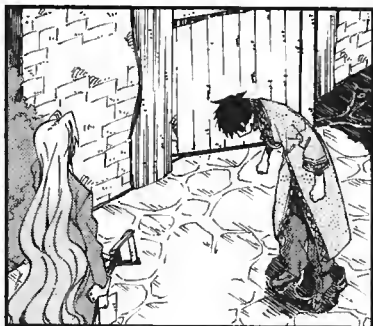
ちゃんとした死^しを
迎^{むか}えてほしい



だから……頼^{たの}む




そうですね




三人もの墓守が
討たれた事は
不安要素ですし

調べた方が
良いのかも
しれません



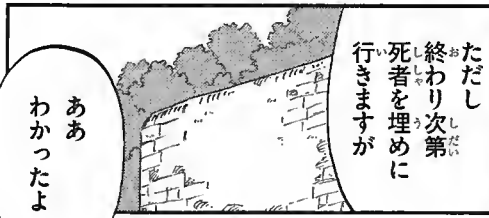
この村の事を
調べるため

私も少し
時間を頂きます



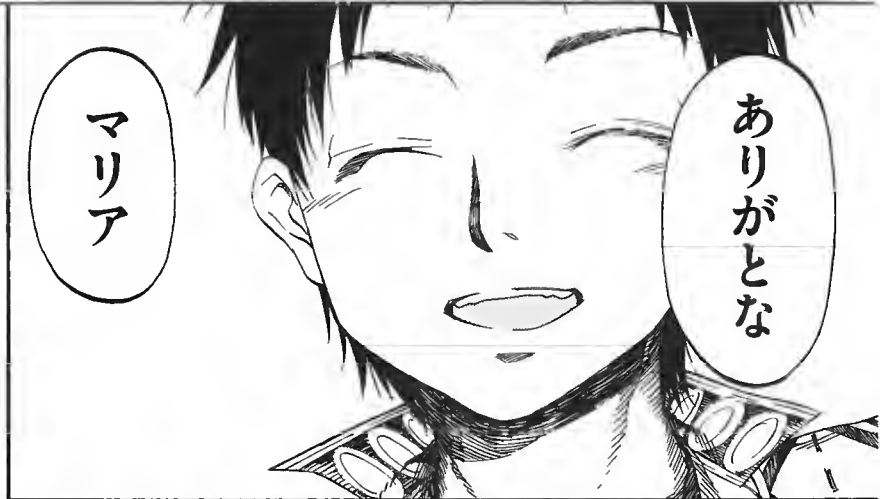
それじゃあ

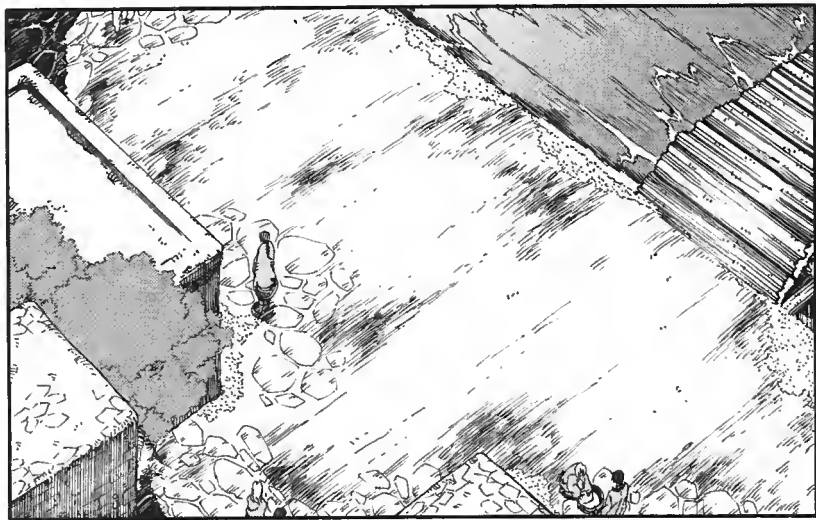
はい



ただし
終わり次第
死者を埋めに
行きますが

ああ
わかったよ

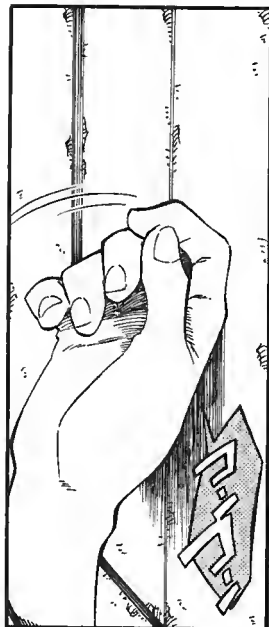




分かって
もらっんだ

かあ
母さん……
姉ちゃん……

みんなに……!!



母さん……

ん？



あら……
ルカじゃない

どうしたの？
こっちの方まで
来て……





何を言っ
て
いるのかしら？



……
一体いつまで
こんな事
続けるんだ？



一体いつまで……

あら……
行かないわよ
私……



言っただじゃないか！
しばらくしたら必ず
父さんのところへ
行くって……

もう
一年以上は経っ



邪魔をする
墓守なんて
皆殺して

死なないなら
死ななくても
いいのよ



……
だって楽しい
もの……

たの
楽しいまま

ずっと生きていけば
いいのよ



邪魔をする墓守なんて
皆殺して

楽しいままずっと
生きていければいいのよ

母さんの言うとおり
ルカ……

私達別に悪い事して
いないでしょう？

死んでいないだけで……

墓守に
殺されるなんて
冗談じゃないわ

あれから
もう三日……

ほか
ひとたち
他の人達とも
はみじ
話
はしたけど……

こた
いっしょ
答えは二緒だった

このまま何も
でき
出来ないなんて……





ですのでこれから
向かおうかと……

!



瓦の位置や
彼らが使うであろう
通路はほとんど
把握しました

私ならば
問題無く突破
出来ると思います



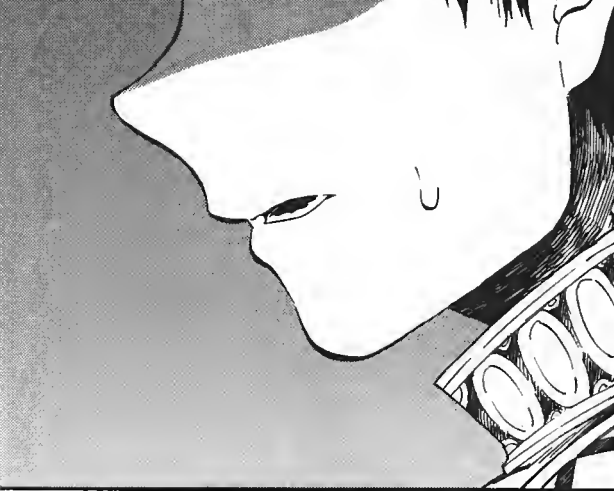
速やかに死者を
眠りに導く事が
墓守の成すべき
事です

なのに私はそれを
三日も遅らせて
しまいました

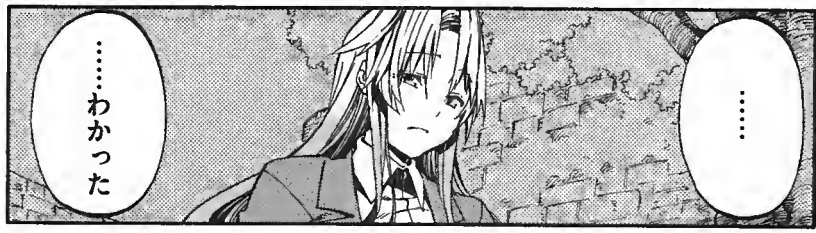


待ってくれ！
母さん達とまだ
話が……

駄目です




これ以上許す事は
出来ません



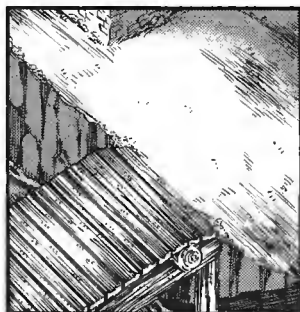
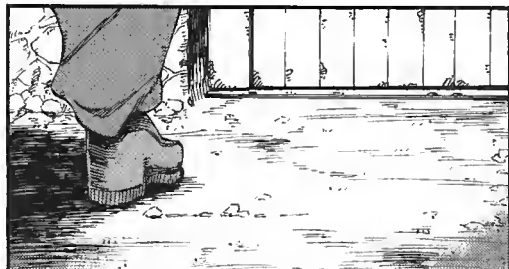
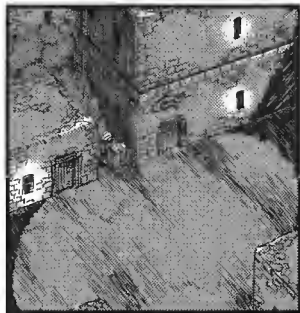
……わかった

……



それなら……

俺も一緒に
行かせてくれ







ひと



だれ

み
かお



わたし

ししゃ



はかもり

ふふ……
なるほどね



墓守よ!


墓守が来たわ!!

……墓守だとい
うだ!!

……さうと仕留め
ちまふんだ

……たく面倒な
奴らだな
何處も何處も……


最近妙に
突っかかってくると
思ってたけど
そういう事……



まさか息子に
命を狙われちゃう
なんてねえ




!!



違う！
俺は……！

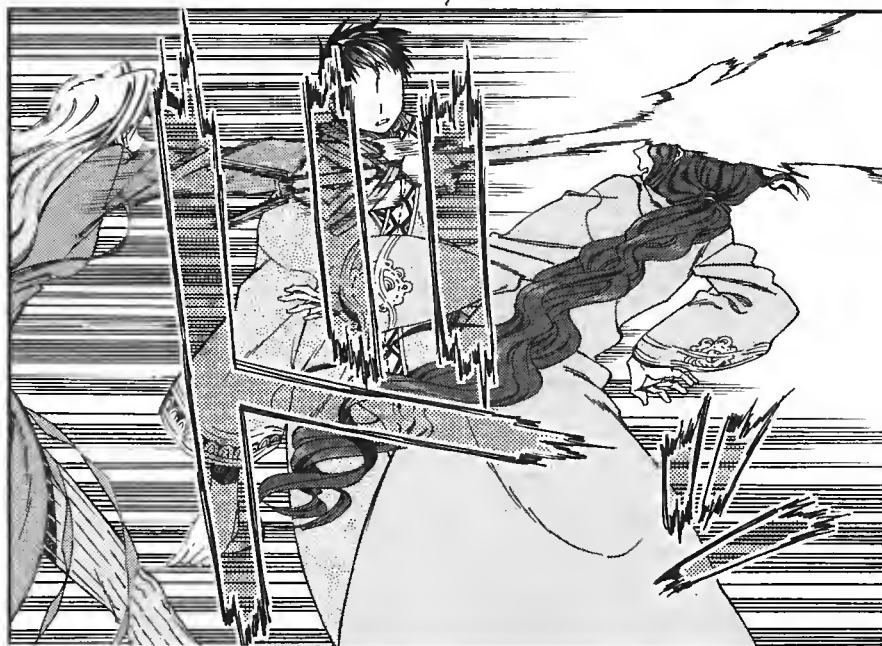
違うわいよ



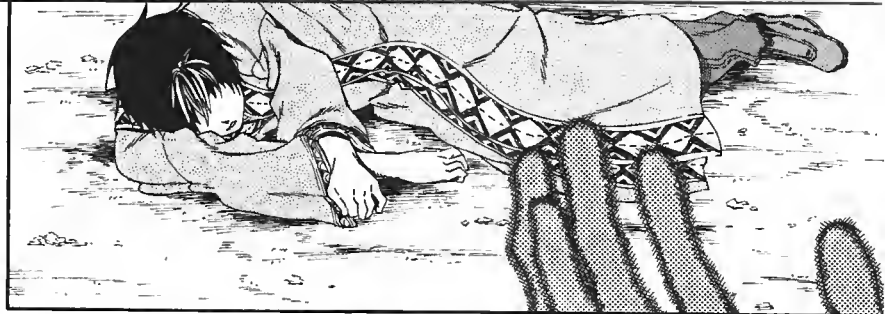
あんたも

まあいいわ

わたしは
おな
私達と同じになれば
はか
墓守がどんなものか
わか
解るわよ

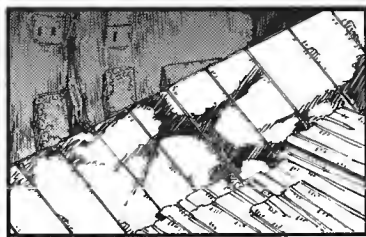


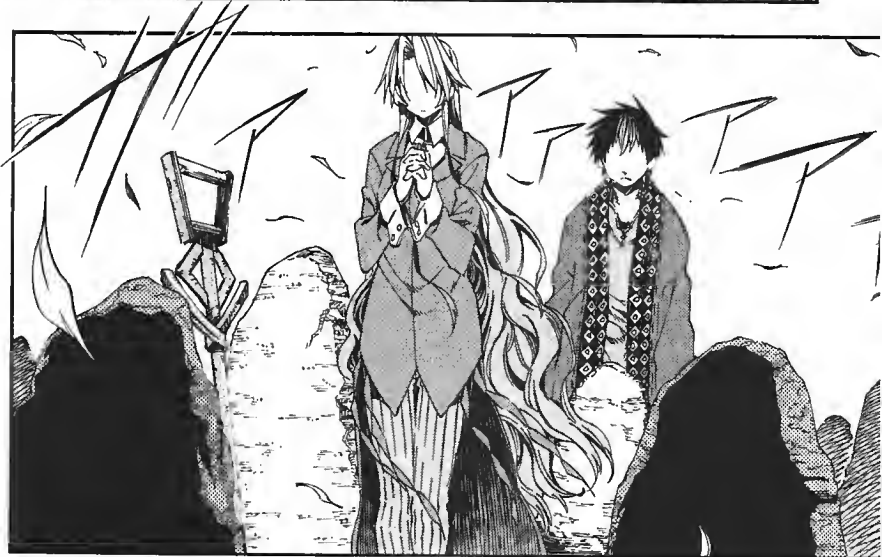
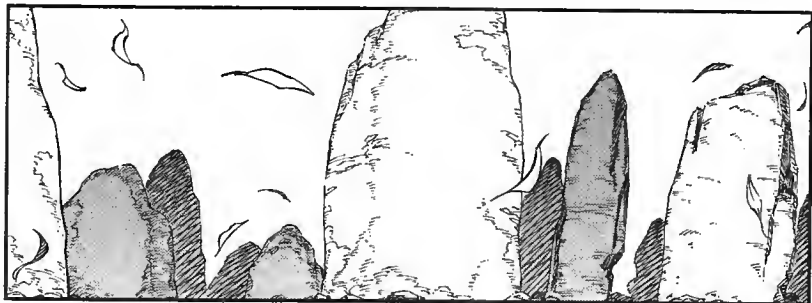


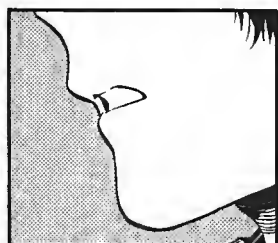


結局何も……

俺は……







ただ.....あの人達に
かあ
.....母さん達に
ひとたち

墓守に手を出して
はかもり
ほしくなかった.....
てだ

自分を堕とす
じぶん
様な事をして
ようごと
ほしくなかった

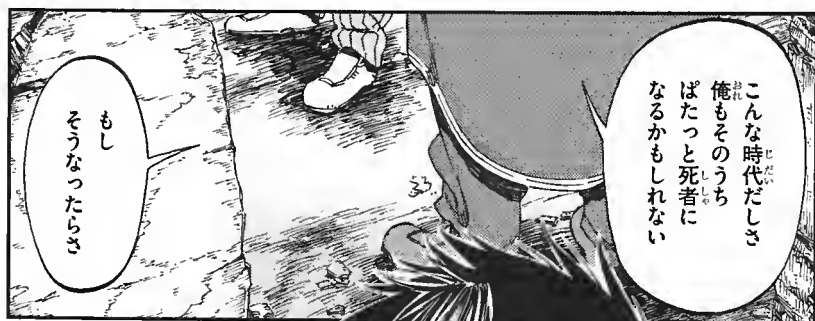
死者として
ししや
じゃなくって
ひと
人として死を
くさど
全うしてほしかった

それだけ
だったんだ





なあマリア



こんな時代だしさ
俺もそのうち
ばたつと死者に
なるかもしれない

もし
そうなったらさ



あんたが俺を
埋めてくれよ

ここに
立ち寄ってさ



まあでも俺おれこの村むらに
おいてもらえるのかな
村の決まり事
破やぶっちゃったし

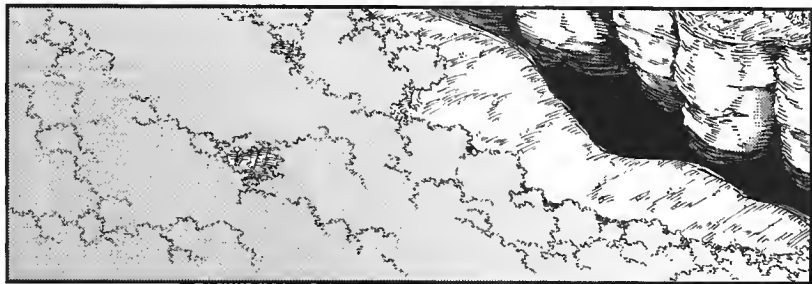


わかりました



変へんな
墓はかもり守もりだな









もんだい
問題………

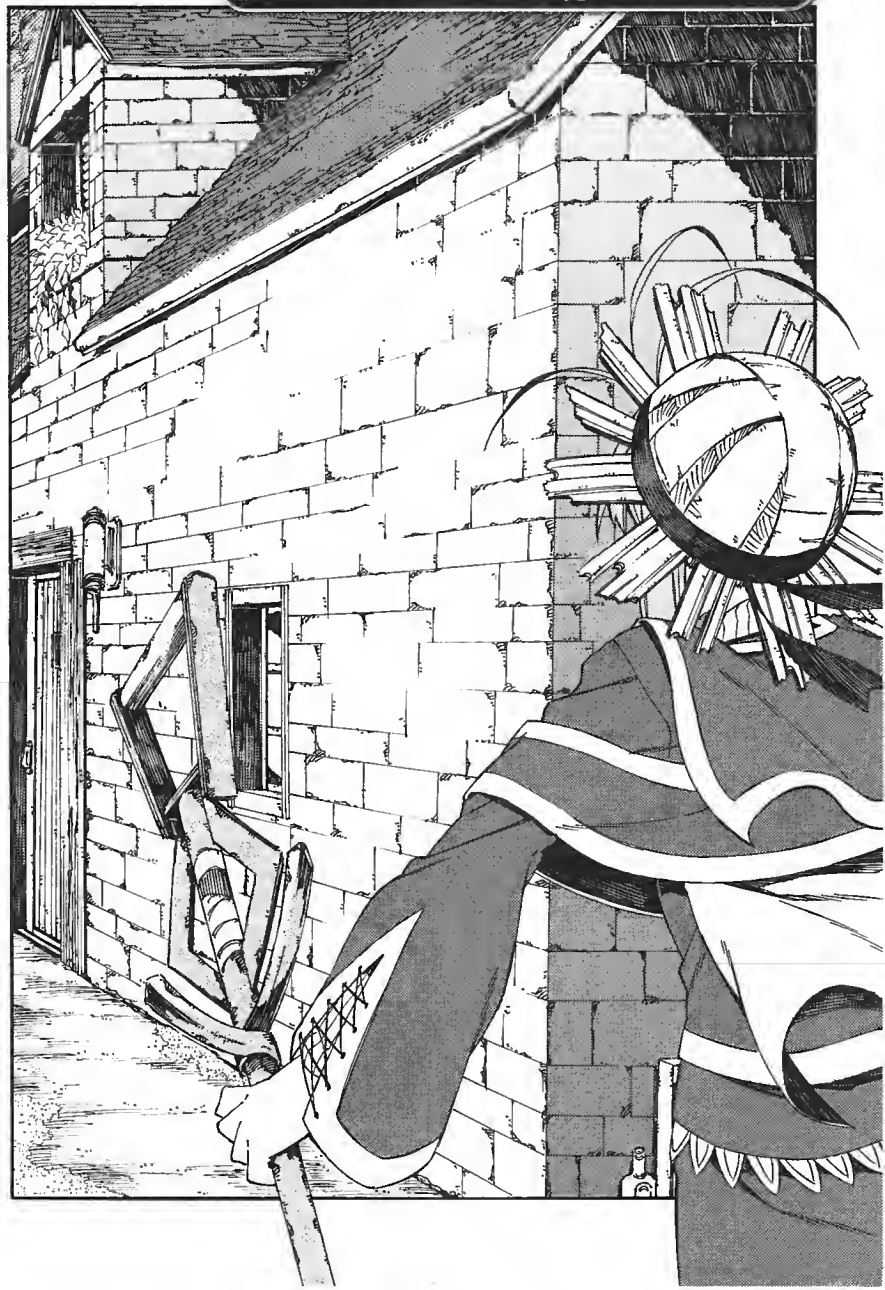
これは
だいまんだい
大問題です

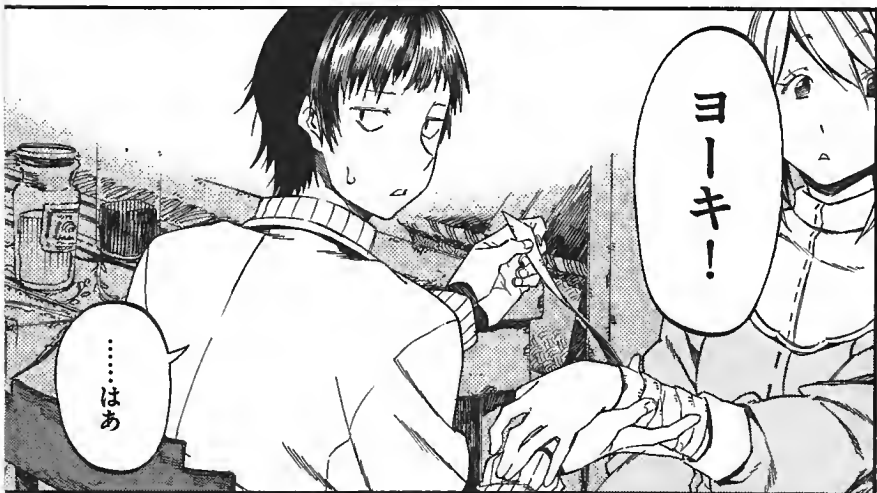
第27章 追憶Ⅵ

お母さまから
シヨベルを継ぎ

墓守なら身なりもと
服も作って
もらったのに……

しごと
仕事も無いまま
はやすうねん
早数年………
ですね







ヨーキの仕事を手伝います！

駄目です

……な！



知識も技術も必要な事がアイには無い

だから駄目だ



なんてですか……
私は墓守として……

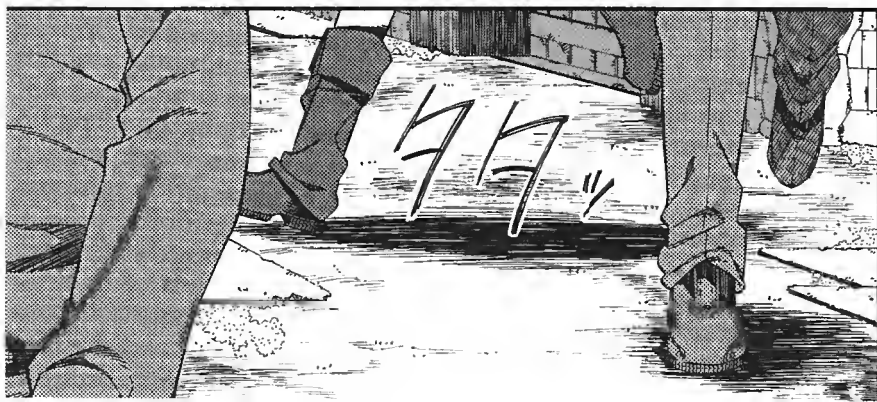
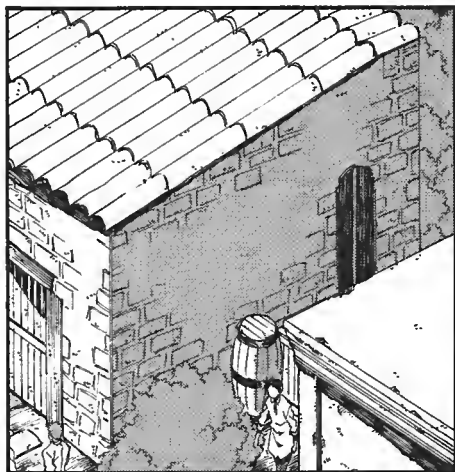
アイに僕の事は出来ないよ



それに……
僕のやっている事をアイに知られるのはあまり良くない

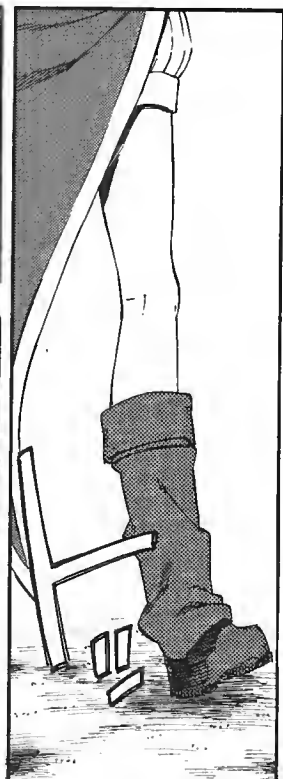
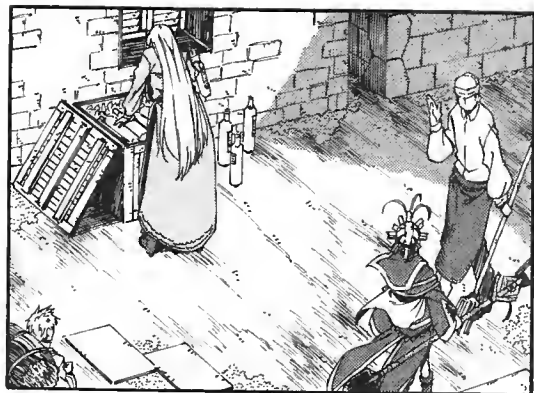
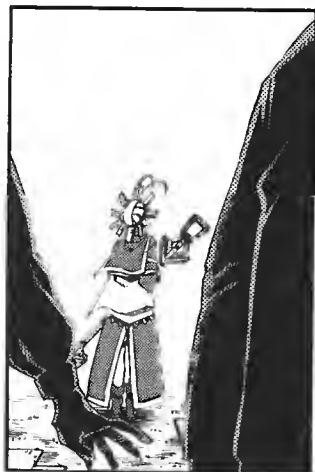










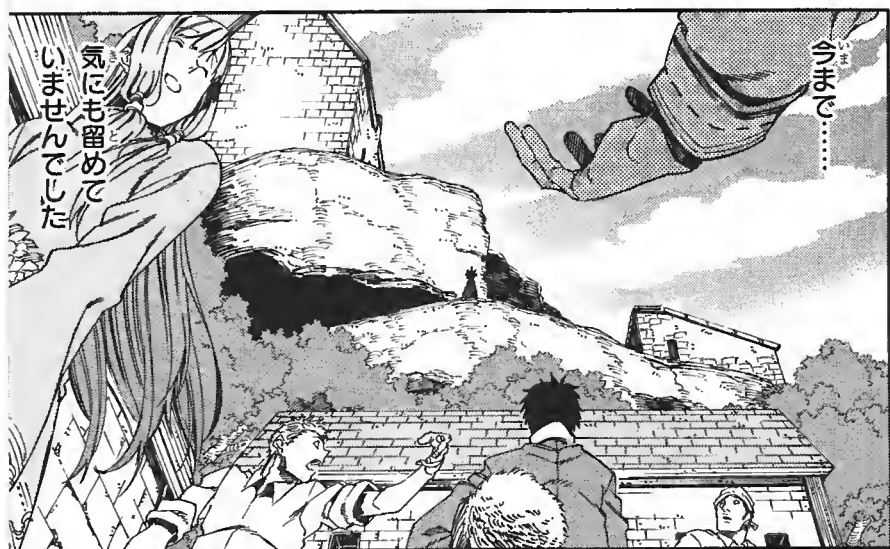
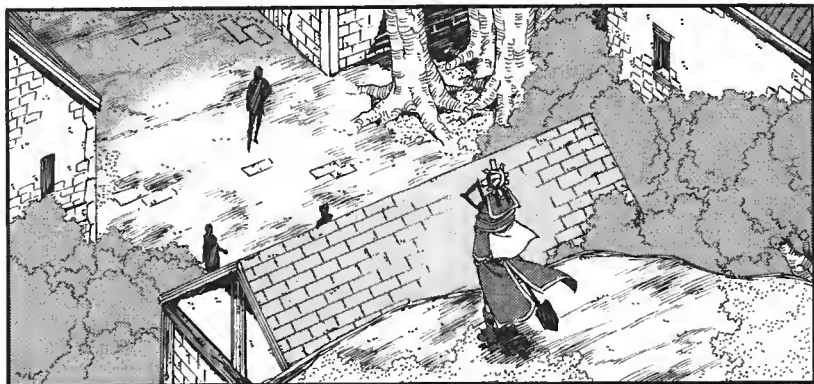


漫画, 小説, 雑誌



Manga-zone.org

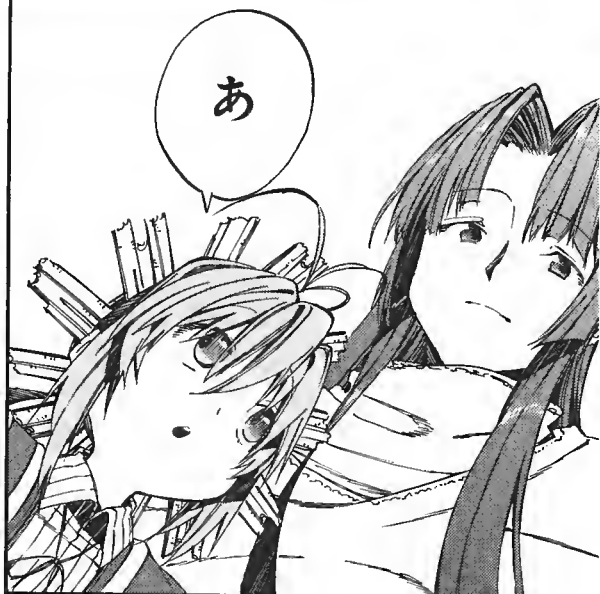






アンナ

どうしたの？
こんな所で
ポーっとして



あ



それと

それはダメよアイ
あの人私にも手出し
させてくれないから



あ……ちよつと
ヨーキの仕事を手
伝おうとしたんですが

追い出されて
しまいました……

あゝ

村^{むら}のみんなを

見ていました

みんなには
すべき事^{こと}があつて

村^{むら}やみんなの
役^{やく}に立^たっている

けれど……
私^{わたくし}は墓^{はか}守^{もり}なのに

まだ何^{なに}も……

なるほどね

だから
てつだ
ヨーキの手伝いを？

はい……

せめてみんなの
役に立つ仕事
がしたいなと……

でもアイが
したいのは
墓守としてすべき
こと
事でしょう？

ヨーキの
てつだ
手伝いをして
もそれは
かな
叶わないわ

それに
アルファ様も言っ
ていたんでしょ？

自分て自分
じぶん
じぶん
したいこと
を見つけた
見つけな
いけな
いって



そう……ですね

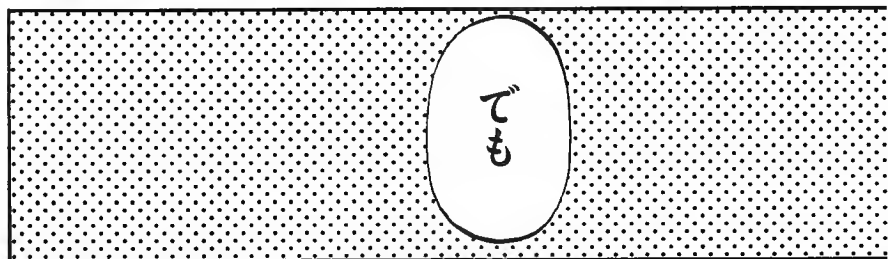
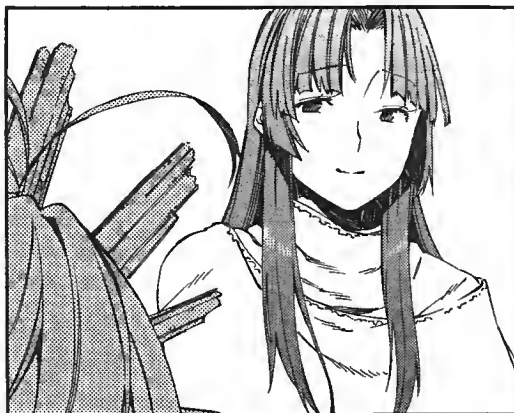
そうでした
頭から
抜けてきました…



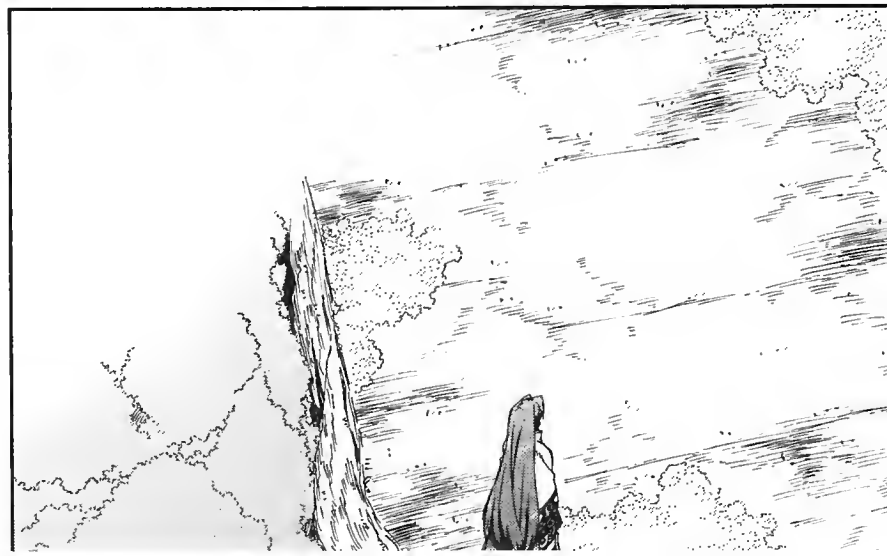
あせ
焦らなくても
大丈夫よ

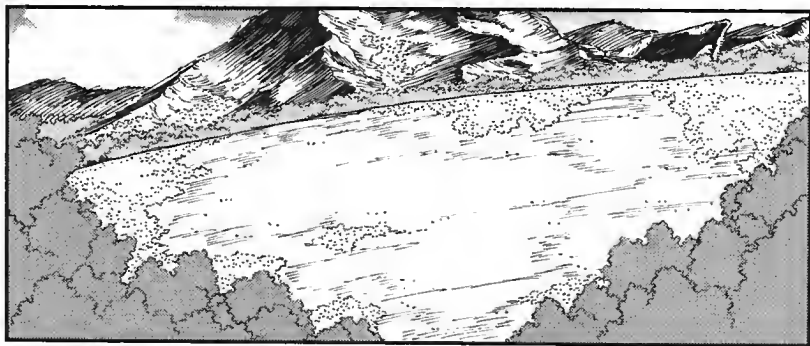
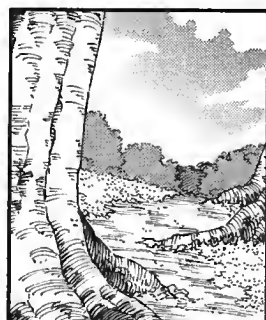
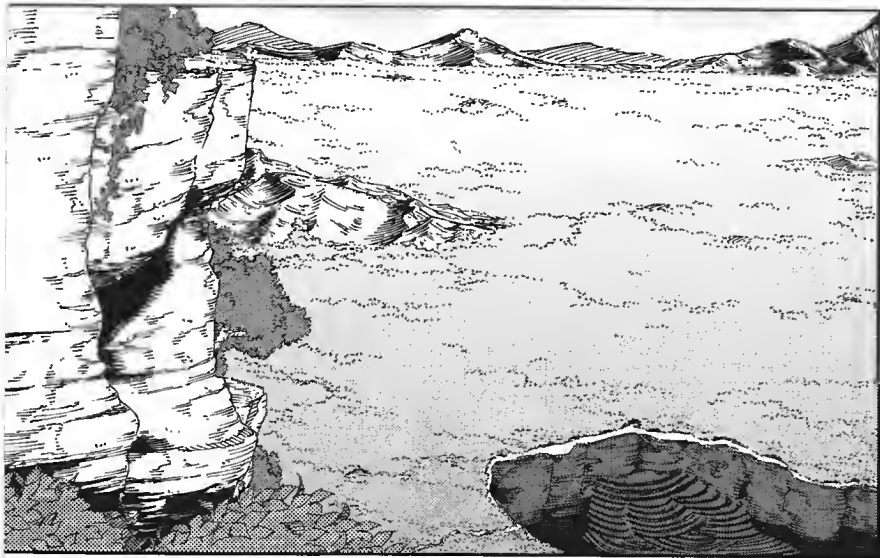
いま
今はまだ
見つかって
いなくても

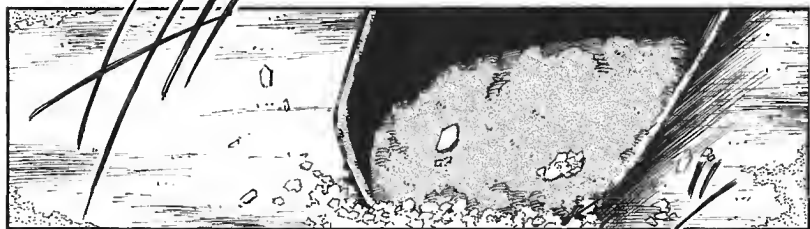
アイならきつと
自分のすべき事
を見つけられるわ











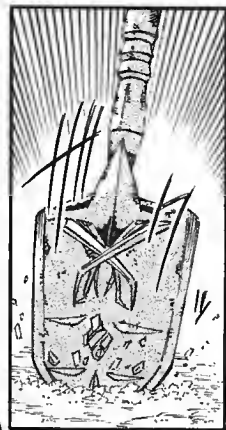
お母様^{かあさま}がなくなつて
もう何年^{なんねん}も経ちますが

未だ^{いまだ}に
見えてきません

自分のやりたい事^{じぶんがやりたいこと}が

やるべき事^{いべきこと}が

いつか私^{わたし}にも……

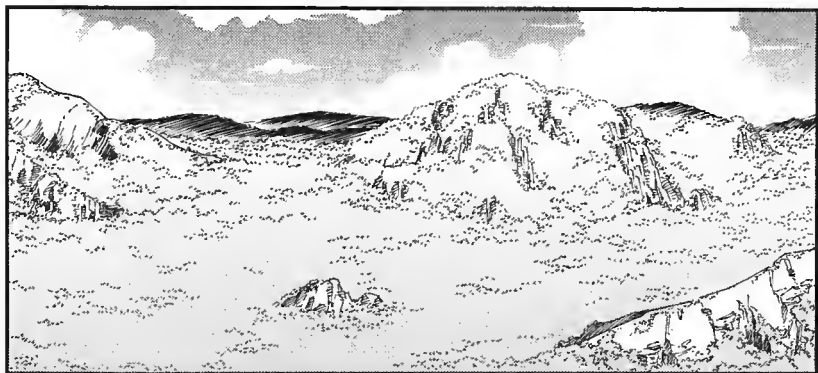






第28章 追憶Ⅶ







随分と
楽しそうだな

そんなの
当たり前じゃ
ないですかっ



アイ

はい？



やりたい事も
見つかりましたし
本当にこれからが
楽しみですっ



これから見た事
無いものを沢山見て
知らない事を
沢山知ります！

考えただけでも
ワクワクしてつい
小躍りしたく
なっちゃいますよ！



あっ そうだ
スカーさんちよつと
いいですか？

聞きたかった事
があるのですが……



たった十二歳の女の子がだ……



数日前に自分の育ってきた
村が崩壊……

父親も先日亡くしたばかり……



無理^{むり}をして
いなければいいが……

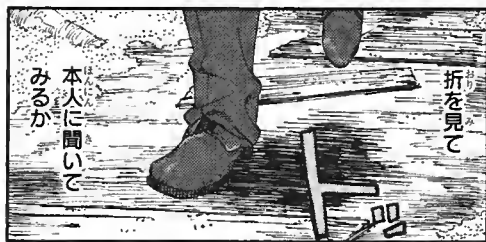


このまま
真っ直ぐ^{まっすぐ}で
大丈夫^{だいじょうぶ}ですか？

あ……ああ
大丈夫^{だいじょうぶ}だ



ユリーさん



本人^{ほんにん}に聞いて
みるか

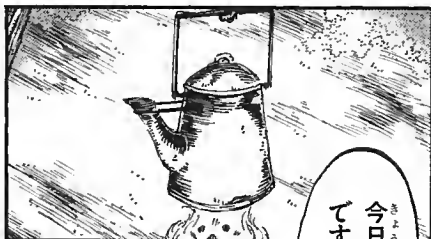
折^{おり}を見て





それにしても
随分と手慣れた
いるな

村の外で
夜を過ごす事が
多かったのか？



今日はここまで
ですかね



そうだな
夜が明けてから
再出発
いいだろう



村のおじいさん達に
叩き込まれたと
いいですか……



ああ……いえ
そういうわけでは
なくてですね



まさか役立つ日が
こようとは思
っていません
でしたが……



でも今回は
ユリーさんと
スカーさんのお陰で
とても楽でしたね

今回は？



先人の知恵だ！
アイちゃんも
覚えなさい！


えー

……と
言われてですね

はははー
なるほどな








無理^{むり}を
していないか？

へ？



ここ数日^{すうじつ}で君^{きみ}の
置^おかれて^{かんさう}いる環境^{かんきやう}は
大きく変わった

自分^{じぶん}の育^{そだ}つてきた
場所^{ばしょ}が無^なくなり
父親^{ちちのおや}を亡^なくし

あ……あの
ユリーさ

なのに君^{きみ}は
元氣^{げんき}過^すぎるくらい
明る^{あかる}く振^まる舞^まつて
いる

それは自分^{じぶん}の
気持^{きもち}ちを隠^{かく}そうと
無理^{むり}をして^{おも}ているのではと
思^{おも}つてな

どうなんだ？



お父様の事だって
確かに悲しかったです

今も寂しいです

でも

ちゃんとお別れは
しましたから

それに

お父様の夢も
お母様の夢も
ひつくるめて

私の夢で
叶えるんです





これが
こんな状況に立たされた
子供の

言葉なのか……？

アイ……君は……

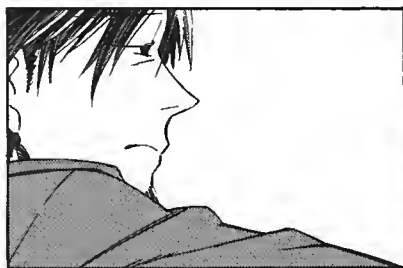
変な話をして
悪かったな

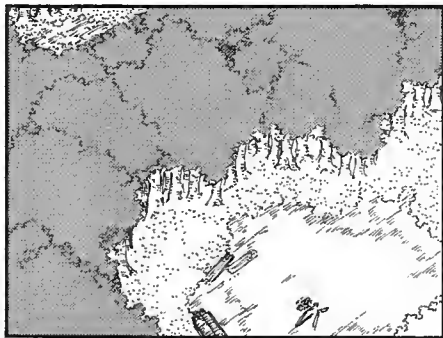
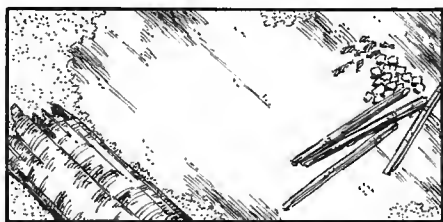
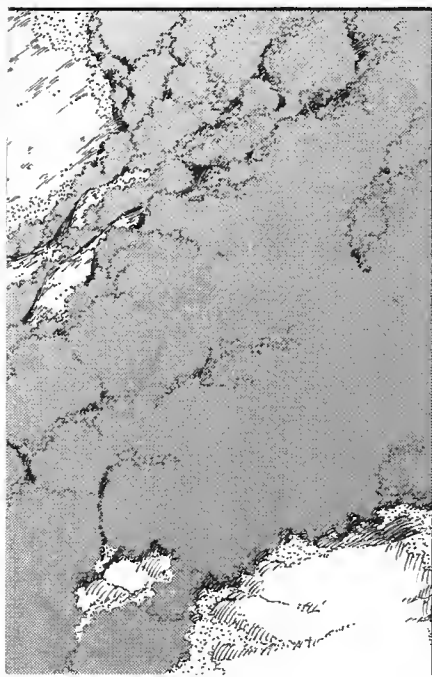
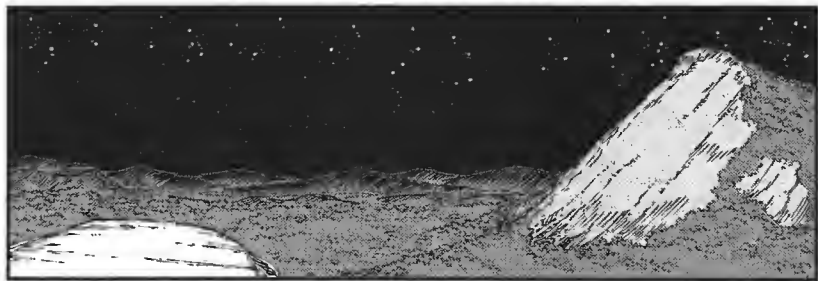
そろそろ
寝ておこうか

そうですね
ちよつと眠く
なってきました

ふああ……

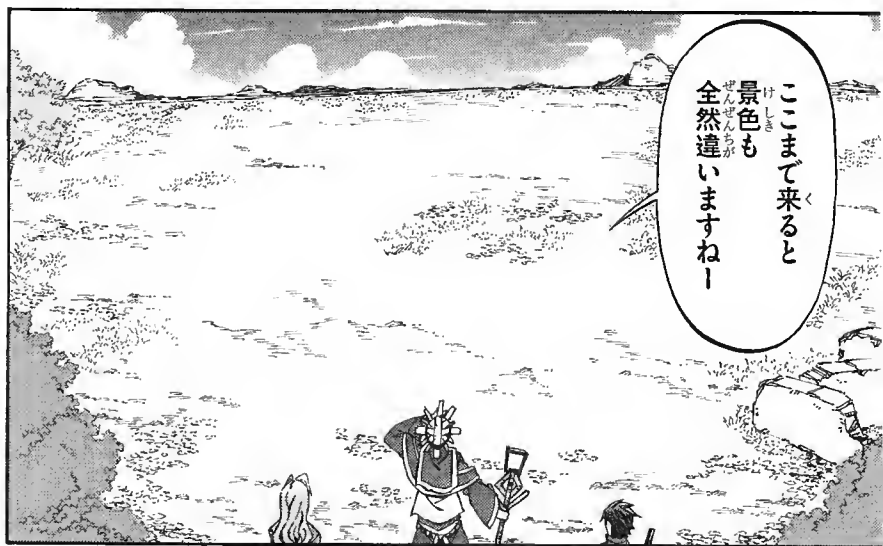
寝ましょう







おーっ



ここまで来ると
景色も
ぜんぜんが
全然違いますねー



ホントですか!

確かこの先に
町があったはずだ
そこで休ませて
もらおうか



結構
歩いたからな

いったい
一体どんな所
なんでしよう

おい！
ちよつと落^おち着^っけ
アイ！

こうしては
いられません！

はや
早く
行きましよう！

ダッ







ところで
今回の最終巻

8割方くらいが
オリジナルな感じ
だったのですが

僕はもう
ビクビクしながら
描いていました

原作のイメージを
崩してないかなとか
こういう話をやって
大丈夫かなとか

気の休まらない
数ヶ月でしたね

でも良い経験を
させてもらったなど
思います

はあ
いやほや

あとこの作品に
関わった事は
自分にとって大きな事
だったと改めて
思いましたね

最後になりますが
原作者の八江さん
原作イラストの
茨乃さん

手伝ってくれた方々
関わってくれた方々
読者の皆さま
どうもありがとう
ございます

ではではっ

ではではっ

終

DRAGON COMICS AGE

ドラゴンコミックスエイジ

神さまのいない日曜日 4

原作
いりえ きみひと
入江君人

作画
あばらへい き
肋兵器

キャラクター原案
しの
茨乃

2013年8月9日初版発行

発行者/**山下直久**

発行/**富士見書房**

<http://www.fujimishobo.co.jp>

〒102-8144 東京都千代田区富士見 1-12-14 (03) 3238-8591 (編集)

発売/**株式会社KADOKAWA**

〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3 (03) 3238-8521 (営業)

カバー・本文デザイン/**伸童舎**

印刷/**大日本印刷**

製本/**BBC**

初出/月刊ドラゴンエイジ(富士見書房刊) 2013年1月号~8月号

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係までお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この作品はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。

2013 Fujimishobo, Printed In Japan

©2013 ABARAHEIKI

©2013 KIMIHIITO IRIE・SHINO

ISBN978-4-04-712888-0 C0979

